



横浜国立大学

YNU

キャリアデザインファイル **2012-2015**

学籍番号	
氏名	

<目指してほしい人材像とは>

1. 学問を学び友と語りつつ、柔軟な発想と課題探求・解決能力を身につけ、社会に貢献する。
2. 社会において中核的人材になる真の実力と人間性を得る。
3. 科学的探究心を尊重し、チャレンジ精神に基づく研究の場を通して、深い知識と洞察力を獲得する。
4. 国際性溢れる環境の中で、外国人学生と共にコミュニケーション能力を高め、世界に発信・飛躍する。
5. 大学院においてさらに高度の教育を受け、高度専門職業人や研究者として社会に貢献する。

我が国文明開化の先導地・横浜で育った本学は、実践的な生きた学問を通して、社会に開かれ、国際性とチャレンジ精神を重視する、自由な精神と機動力に溢れる大学です。

自然に恵まれた常盤台キャンパスで学問を学び友と語りつつ、柔軟な発想と課題探究解決能力をしっかりと身につけ、社会の中心的人材となって人類社会に貢献することで自己実現を図ろうとする人を、本学は求めています。

「キャリアデザイン」とは、皆さんが自分の将来の生き方（キャリア）を考え、そのために何をすればいいのかを定めて実行する（デザイン）ことを指しています。将来を見据えた意味のある大学生活を実現する手助けになれば、と横浜国立大学ではキャリアデザインファイルを用意しました。このファイルには、横浜国大生としての皆さんの成長を応援するために、キャリアデザインへのヒントがまとめられています。このファイルを有効に活用して、大学生活を有意義に過ごして下さることを願っています

YNUキャリアデザインファイルの使い方

キャリアデザインファイルの構成と記入方法

このファイルには、キャリアデザインシート編と資料編の二つの部分があります。キャリアデザインシートは、皆さんに書き込んでもらうためのものです。記入のためのヒントを、少しだけシートの一部に示しました。しかし、それにこだわる必要はありません。自分の役に立つよう考えて記入して下さい。大切なことは、自分で考えて記入することだ、と考えて下さい。

キャリアデザインシートの記入で一番大事なこと

キャリアデザインシートの使用にあたって、大切なことは自分で考えて記入することだ、と上に記しました。もう少し付け加えておきましょう。一番大切なことは、自分と正直に向き合って記すことです。

キャリアデザインファイルは自分だけのもの

キャリアデザインファイルは大学関係者に見せるために作るものではありません。自分を確認し、将来を眺めるために作るものです。

追加用紙の記入方法（用紙に記入するのではなく、電子ファイルで管理することも可能です）

入学時に配布したキャリアデザインファイルには、大学3年次終了までに必要となる、最小量の用紙が含まれています。もっと用紙が必要な人、自分なりの項目を加えて使いたい人は大学のホームページにアクセスして下さい。下記のURLにダウンロードできる形でキャリアデザインシートが準備してあります（<http://www.cgp.ynu.ac.jp>）。

ダウンロード用のファイルはリッチテキストフォーマットという形式で作られています。様々なワープロソフトで（word、一太郎、open officeなど）で読み込めば、印刷もできますし、自分専用のファイルとしても使用できます。

キャリアデザインシートに記入する時期

キャリアデザインシートには**0**入学前(高校時代)の自分を確認しておこう、から**8**アクションプラン、まで9つの項目があります。記入する時期を表1（次ページ）のように想定して作られています。キャリアデザインシートの右上の部分にも示してあります。

表1 キャリアデザインシート記入時期

	入学前	入学時	1年生 10月	1年 修了時	2年 修了時	3年 修了時
0 入学前（高校時代）の自分を 確認しておこう	◎					
1 入学時の自分を確認しておこう		◎				
2 入学してからの半年を振り返っ てみよう			◎			
3 この一年を振り返ってみよう				◎	◎	◎
4 まわりとの関係に目を向けてみ よう				◎	◎	◎
5 将来に向けて何を考えたらう か				◎	◎	◎
6 大学時代の成果をまとめておこ う				◎	◎	◎
7 自分の能力を開発するためにど んな努力をしたか				◎	◎	◎
8 アクションプラン				◎	◎	◎

キャリアデザインシートの理解のために

キャリアデザインシートが何を考えて構成されているのかを43頁に記しました。キャリアデザインシートを有効に活用するために、意図の理解が役に立つかもしれません。

進路とYNUキャリアデザインファイル

大学での4年間の先には、大学院へ進学するのか、あるいは就職するのか二つの進路が待っています。キャリアデザインの中で、進路決定は最も重要な事項の一つです。

大学院への進学には、自分が何を目指してより高度な学問の修得を志すのかを明確にしておくことが、進学を決めるためにも、大学院での学習を充実させるためにも欠かせません。YNUキャリアデザインファイルは、このために多いに役立つ仕組みになっています。

もう一つの進路である就職にとっても、「自律した学生の採用」を企業が希望する今日、このファイルは就職活動の一つの準備といえる側面を持っています。就職とYNUキャリアデザインファイルの関係について少し詳しく44頁に記しましたから、興味のある人は読んで下さい。

目 次

YNUキャリアデザインファイルの使い方	3
入学者の皆さんへ	6

I. キャリアデザインシート編

I.0	入学前（高校時代）の自分を確認しておこう	10
I.1	入学時の自分を確認しておこう	11
I.2	入学してからの半年を振り返ってみよう	12
I.3	この一年を振り返ってみよう	14
I.4	まわりとの関係に目を向けてみよう	20
I.5	将来に向けて何を考えただろうか	26
I.6	大学時代の成果をまとめておこう	32
I.7	自分の能力を開発するためにどんな努力をしたか	36
I.8	アクションプラン	38
I.9	YNUキャリアデザインファイルの仕組み・考え方について	43
I.10	就職とYNUキャリアデザインファイル	44

II. 資 料 編

II.1	キャリアサポートシステム	47
II.2	Webサイト	48
II.3	本学のキャリア教育	49
II.4	インターンシップ	51
II.5	キャリア教育書籍について	53
II.6	キャリア支援関連行事日程（平成24年度予定）	55
II.7	キャリア教育関連行事日程（平成23年度実績）	56
II.8	英語学習相談室へようこそ	57
II.9	図書館の活用	58
II.10	キャリア教育キャンパス案内	59

III. 私たちのキャリアデザイン

61

IV. 教職履修カルテ

IV	教職履修カルテについて
----	-------------

入学者の皆さんへ

有意義な大学生活（成長が財産となる4年間を過ごそう）

入学したばかりの皆さんは、大学生活を如何に有意義に過ごそうか考えているのではないのでしょうか。勉強に没頭したいと考えている人もいれば、部活・サークル中心の生活を考えている人、アルバイトに取り組みたいと考えている人もいるかもしれません。

入学したばかりでは4年間もあるのだからと時間がたっぷりあるように思えるかもしれませんが。しかしあっという間に時間は過ぎてしまいます。卒業後に就職を考えている人にとっては、3年生から就職活動がはじまるわけですから、丸々4年間を学生らしく過ごすことは難しいでしょう。大学院進学希望者も同じです。高度な学問の修得には、基礎となる力をつける時期である学部時代の過ごし方が、大学院での充実度を左右するといっても言いすぎではないでしょう。

そこで皆さんに「どうやって大学生活を充実させたいのか」「なぜそのような大学生活を送りたいのか」を考えた上で、大学生活を送ってもらいたいのです。それが卒業する時に自分自身が成長したと自覚できるようになると考えているのです。これを考えることが社会の中で生きていくうえで大きな財産となるのです。

大学での学び（答えを見つけるプロセスを楽しもう）

ところで、大学で学ぶということは高校までの学びとは違ったものです。高校までは基本的に学校が与えることを「覚える」「理解する」ことが中心でした。高校で成績がよかったのはあくまでも「覚える」「理解する」ことが人より優れていたからに過ぎません。では大学での学びというのはどういうものなのかというと、答えが必ず一つとは限りません。さまざまな答えを導き出すためにどのようなプロセスをたどって答えにたどり着くか、そのプロセスを楽しみながら学ぶことが大学での学びです。もちろん「覚える」「理解する」ことが大学で全く求められないわけではありません。大学での学びにたどりつくための段取りとして最低限の基礎知識は求められます。大学での学びはその基礎知識を踏まえて、さらに高度な学びを求めているのです。

社会に出るとのこと（社会は答えのない判断だらけ）

社会に出るとのこととは、答えのない判断を常に求められる立場になるということでもあります。その答えを出す時に、どのような情報を元にどうやって判断をしたのかということとは常に意識せざるをえないのです。社会に出ればマニュアルはないのです。大学での学びはこのように答えのない判断をする準備になっているのです。

自分でつくるマニュアル

これからみなさんにやってもらうキャリアデザインにもマニュアルはありません。そのマニュアルにあたるものをつくるのは自分自身です。

例えばおしゃれを極める時、ファッション誌を鵜呑みにしてマニュアルどおりにするわけではないですね。自分にあったファッションは何なのか、どういう場面でおしゃれをするのかといったことを考えておしゃれを極めようとしていきますね。

自分のキャリアもマニュアルどおりってつまらなくないですか。

何のために学ぶのか（自律的な学生を目指して）

みなさんにやってもらうキャリアデザインというのは、「何のために学ぶのか」「学んだことが自分にとってどういう意味があったのか」ということを振り返りつつ学ぶことで、自分の今後の人生を考える手がかりになるものです。ですから大学での勉強以外にも自分にとってどういう意味があるのかを考えることができるのです。

横浜国立大学のキャリアデザインは、受動的な学生のためではなく、自律的な学生を目指す人のためにつくりました。

大学はレジャーランド？

受動的な学生と自律的な学生についてもう少し説明しましょう。

大学の主役は誰だと思いますか。もちろん学生です。しかし、自ら勉強もせず遊んでばかりの学生が主役なのではありません。大学に求められているのは、強制されなければ、大学をレジャーランドと勘違いしたかのような生活を送る学生を社会に輩出することではありません。大学をレジャーランドのようにとらえるのはマスコミがつくりあげた幻想であり、現実にも求められているのは自律的に勉強や課外活動に取り組む学生なのです。

なぜ自律的な学生が求められるのか

大学は現在大きな2つの影響を受けています。一つの影響は18歳人口の減少です。それによって入学人数が減少しました。そのため学生は大学にとってより貴重な存在になり、学生やその保護者を満足させることが各大学で考えられるようになったのです。そこで大学は、学生が多くのことを学習し、自らを高める機会を提供することに、これまで以上に努力するようになったのです。

もうひとつの影響は近年の経済変動に伴う就職環境の変化です。それまで景気の変化に伴って多少の変化はありましたが、どこの大学をでればだいたいどのあたりの企業に就職できるということはほぼ見通しが立っていました。しかし近年の就職は、大学名で就職先が決まるのではなく、企業が求める学生だけが絞り込んで採用されるようになりました。就職が量から質に変化したということもできるでしょう。その時求められているのは、単に与えられたものをそつなくこなしていた学生ではなく、「学生時代何をやってきたか」「なぜそれをやっていたのか」を説明できる学生になったのです。いわば自律的に学び主体的に行動できる学生が求められるようになったのです。

21世紀は知識が社会のあらゆる側面や領域において、かつてないほど重要な価値を占める社会、知識基盤社会であると考えられています。知識基盤社会では、指示を待って動く「過程実現型」の人ではなく、「个性的で創造的」な「目標設定型」の人が求められています。自律的な学生は「目標設定型」の人でもあるのです。

自律的な学生になりませんか

自律的な学生になりませんか。難しいことはありません。その手助けをするのがこのキャリアデザインファイルなのです。これを使って自分に向き合うことで、知らないうちに自分自身が自律的な学生になれるように設計しています。



I



キャリアデザインシート編

入学前(高校時代)の自分を確認しておこう

1

将来についてどんなことを考えていたのだろうか。

2

横浜国立大学はどんな大学だと思っていたのだろうか。

3

高等学校時代に最も力を入れて取り組んだことはなんだっただろう。

入学時の自分を確認しておこう

1

大学に入る前に得意だったこと、不得意だったことは何だろうか。

(すぐ下の欄の記述を参考に書いてみよう。)

学習課目、対人関係、自己表現力、分析力、決断力など様々な視点から考えてみよう。

2

なぜ横浜国大に来ようと思ったのだろうか。

3

とりたい授業、やりたいことは何だろうか。

なぜその授業をとりたいのだろうか、なぜそれをしてみたいのだろうか。

入学してからの半年を振り返ってみよう

1

この半年間で自分は
どう変わっただろう
か。

ものの見方が変わった、勉強の取り組み方が変わった、など受験生時代と比較して考えてはどうだろうか。

変わったきっかけは何だっただろうか。

2

入学前のイメージとは
違っていたところが
大学にあったら
うか。

なぜ大学は自分のイメージと違っていただけだろうか。

3

入学時に決めていた
取り組みの中に、実
行できなかったもの
はあるだろうか。

なぜ実行できなかったのだろうか、あるいは実行しなかったのだろうか。



この一年を振り返ってみよう

1

この一年間自分はど
う変わっただろうか。
(下の欄を参考に書いてみ
よう。)

行動力がついた、指導
力がついた、など自分
の強みとなった事柄や
協調性が増した、視野
が広がった、などでも
いいだろう。

変わったきっかけは何だっただろうか。

その変化は自分にとってどんな意味があるだろうか。

2

この一年間でどんな
能力が向上しただろ
うか。
(下の欄を参考に記して
みてはどうだろうか。)

問題発見・解決能力、
創造性、コミュニケー
ション能力、マネジメ
ント能力など自分を能
力という観点から評価
してはどうだろうか。

能力の内容。

何が向上をもたらしたのか。

3

できなかったことは
何だろうか。

身につけたい能力も含
めて記してはどうだろ
うか。

どうしたらできるようになるだろうか。



この一年を振り返ってみよう

1

この一年間自分はど
う変わっただろうか。

(下の欄を参考に書いてみ
よう。)

変わったきっかけは何だったろうか。

その変化は自分にとってどんな意味があるだろうか。

行動力がついた、指導
力がついた、など自分
の強みとなった事柄や
協調性が増した、視野
が広がった、などでも
いいだろう。

2

この一年間でどんな
能力が向上しただろ
うか。

(下の欄を参考に記してみ
てはどうだろうか。)

問題発見・解決能力、
創造性、コミュニケー
ション能力、マネジメ
ント能力など自分を能
力という観点から評価
してはどうだろうか。

能力の内容。

何が向上をもたらしたのか。

3

できなかったことは
何だろうか。

身につけたい能力も含
めて記してはどうだろ
うか。

どうしたらできるようになるだろうか。



この一年を振り返ってみよう

1

この一年間自分はど
う変わっただろうか。
(下の欄を参考に書いてみ
よう。)

変わったきっかけは何だっただろうか。

その変化は自分にとってどんな意味があるだろうか。

行動力がついた、指導
力がついた、など自分
の強みとなった事柄や
協調性が増した、視野
が広がった、などでも
いいだろう。

2

この一年間でどんな
能力が向上しただろ
うか。
(下の欄を参考に記して
みてはどうだろうか。)

問題発見・解決能力、
創造性、コミュニケー
ション能力、マネジメ
ント能力など自分を能
力という観点から評価
してはどうだろうか。

能力の内容。

何が向上をもたらしたのか。

3

できなかったことは
何だろうか。

身につけたい能力も含
めて記してはどうだろ
うか。

どうしたらできるようになるだろうか。



まわりとの関係に目を向けてみよう

1

この一年間で、出会って良かったと思える人がいるだろうか。

その人と出会ったことで新たな価値観を知った、自分が変わった、自分の新たな一面を発見した等、いろいろなことが考えられるだろう。

その人とはどのような関係にあるか。

なぜ良かったと思えるのだろうか。
(上の欄の記述を参考にして書いてはどうか。)



まわりとの関係に目を向けてみよう

1

この一年間で、出会って良かったと思える人がいるだろうか。

その人と出会ったことで新たな価値観を知った、自分が変わった、自分の新たな一面を発見した等、いろいろなことが考えられるだろう。

その人とはどのような関係にあるか。

なぜ良かったと思えるのだろうか。
(上の欄の記述を参考にして書いてはどうか。)



まわりとの関係に目を向けてみよう

1

この一年間で、出会って良かったと思える人がいるだろうか。

その人と出会ったことで新たな価値観を知った、自分が変わった、自分の新たな一面を発見した等、いろいろなことが考えられるだろう。

その人とはどのような関係にあるか。

なぜ良かったと思えるのだろうか。
(上の欄の記述を参考にして書いてはどうか。)



将来に向けて何を考えただろうか

1

自分は卒業後の進路をどのように考えているのだろうか1)、2)。自分は社会とどのように関わりたいのだろうか3)。

(下の欄の1)、2)、3)を参考に記してみようか。)

そうなった自分は、社会にとってどのような価値を持つのだろうか。
(下の欄の4)を参考に記してみようか。)

- 1) 大学院に進学してより高度な学問を身につけることが自分に必要ではないだろうか、大学で学んだことを直ちに社会で実践してみたい、など卒業後の進路を考えただろうか。
- 2) 人から尊敬される人生、公正な人生、周囲の人々と調和する人生、など人生の価値基準を自分はどのように考えているのだろうか。
- 3) 自分のアイデアや提案が生きる仕事につきたい、仕事を通して社会に貢献したい、特別な知識やスキルを活かした専門家になりたい、組織の中で高い地位につきたい、チームで力を合わせて目標を達成していく仕事につきたい、長期的に安定している職業につきたい、高収入を得られる職業につきたい、スケジュールにしばられない仕事につきたい、仕事だけでなくボランティア活動などを通して社会福祉にも貢献したいなど、社会との関わりにはいろいろなものがあるのではないだろうか。
- 4) 社会に新しい価値を生み出す存在、物質的な豊かさをもたらす存在、精神的な豊かさをもたらす存在、文化の発展をもたらす存在、健全な家庭を築くことで社会の安定をもたらす存在、など社会にとって、様々な存在意義を考えることができるだろう。

2

関心が生まれた、もしくは関心が深まった職業は何だったか。

その職業は社会にどのような役割をはたしていると思ったのだろうか。

なぜその職業に関心を持ったのだろうか、もしくは関心が深まったのだろうか。

その職業にはどんな能力が必要だろうか。



将来に向けて何を考えただろうか

1

自分は卒業後の進路をどのように考えているのだろうか1)、2)。自分は社会とどのように関わりたいのだろうか3)。

(下の欄の1)、2)、3)を参考に記してみようか。)

そうなった自分は、社会にとってどのような価値を持つのだろうか。
(下の欄の4)を参考に記してみようか。)

- 1) 大学院に進学してより高度な学問を身につけることが自分に必要ではないだろうか、大学で学んだことを直ちに社会で実践してみたい、など卒業後の進路を考えただろうか。
- 2) 人から尊敬される人生、公正な人生、周囲の人々と調和する人生、など人生の価値基準を自分はどのように考えているのだろうか。
- 3) 自分のアイデアや提案が生きる仕事につきたい、仕事を通して社会に貢献したい、特別な知識やスキルを活かした専門家になりたい、組織の中で高い地位につきたい、チームで力を合わせて目標を達成していく仕事につきたい、長期的に安定している職業につきたい、高収入を得られる職業につきたい、スケジュールにしばられない仕事につきたい、仕事だけでなくボランティア活動などを通して社会福祉にも貢献したいなど、社会との関わりにはいろいろなものがあるのではないだろうか。
- 4) 社会に新しい価値を生み出す存在、物質的な豊かさをもたらす存在、精神的な豊かさをもたらす存在、文化の発展をもたらす存在、健全な家庭を築くことで社会の安定をもたらす存在、など社会にとって、様々な存在意義を考えることができるだろう。

2

関心が生まれた、もしくは関心が深まった職業は何だったか。

その職業は社会にどのような役割をはたしていると思ったのだろうか。

なぜその職業に関心を持ったのだろうか、もしくは関心が深まったのだろうか。

その職業にはどんな能力が必要だろうか。



将来に向けて何を考えただろうか

1

自分は卒業後の進路をどのように考えているのだろうか1)、2)。自分は社会とどのように関わりたいのだろうか3)。

(下の欄の1)、2)、3)を参考に記してみてもうか。)

そうになった自分は、社会にとってどのような価値を持つのだろうか。
(下の欄の4)を参考に記してみてもうか。)

- 1) 大学院に進学してより高度な学問を身につけることが自分に必要ではないだろうか、大学で学んだことを直ちに社会で実践してみたい、など卒業後の進路を考えただろうか。
- 2) 人から尊敬される人生、公正な人生、周囲の人々と調和する人生、など人生の価値基準を自分はどのように考えているのだろうか。
- 3) 自分のアイデアや提案が生きる仕事につきたい、仕事を通して社会に貢献したい、特別な知識やスキルを活かした専門家になりたい、組織の中で高い地位につきたい、チームで力を合わせて目標を達成していく仕事につきたい、長期的に安定している職業につきたい、高収入を得られる職業につきたい、スケジュールにしばられない仕事につきたい、仕事だけでなくボランティア活動などを通して社会福祉にも貢献したいなど、社会との関わりにはいろいろなものがあるのではないだろうか。
- 4) 社会に新しい価値を生み出す存在、物質的な豊かさをもたらす存在、精神的な豊かさをもたらす存在、文化の発展をもたらす存在、健全な家庭を築くことで社会の安定をもたらす存在、など社会にとって、様々な存在意義を考えることができるだろうか。

2

関心が生まれた、もしくは関心が深まった職業は何だったか。

その職業は社会にどのような役割をはたしていると思ったのだろうか。

なぜその職業に関心を持ったのだろうか、もしくは関心が深まったのだろうか。

その職業にはどんな能力が必要だろうか。



大学時代の成果をまとめておこう

6.1 大学での正課教育に関する項目

キャリア教育科目

科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度
メモ：					

自己理解（自分を知ること、自分を深めるの）に役立った科目

	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1年次					
2年次					
3年次					
4年次					
メモ：					

進路を考えるのに役立った科目

	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1年次					
2年次					
3年次					
4年次					
メモ：					

様々な知識や能力を総合して立案し、実行できる力（リーダーシップ力）が身に付いたと感じられる科目

科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度	科目名/履修年度
メモ：					

他大学での履修科目

	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1年次					
2年次					
3年次					
4年次					
メモ：					



6.2 正課外教育に関する項目

資格の取得・様々な講習会への参加の記録

入学前	
1年次	
2年次	
3年次	
4年次	

社会貢献・国際交流活動などの記録

入学前	
1年次	
2年次	
3年次	
4年次	

アルバイト等社会における活動の記録

入学前	
1年次	
2年次	
3年次	
4年次	

就職に関連する活動の記録

インターンシップの記録	
企業見学・公共施設の見学などの記録	
キャリアサポートの相談などの記録	
就職・進学先	



自分の能力を開発するためにどんな努力をしたか
7.1から7.5の項目についてまとめてみよう

7.1 基礎能力（基礎学力と専門学力）の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.2 問題発見・解決能力の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.3 創造性の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.4 コミュニケーション能力の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

7.5 マネジメント能力の向上に役立ったこと

事柄	時期	具体的な内容

基礎能力（基礎学力、専門学力）、問題発見・解決能力、創造性、コミュニケーション能力、マネジメント能力は、キャリア教育におけるキースキルです。これらのキースキルを自律的に習得することによって、本学の卒業者に期待されている「リーダーシップ力を有する人材」の基盤を構築することができます。



PDCAのすすめ：大学での4年間をどのように過ごすかは、その後の人生に大きく影響します。自分の将来を考える視点で大学時代をながめ、立案（Plan）-実行（Do）-点検（Check）-行動（Action）の形で学生生活を送ってはどうだろうか。

1年次を終えてのアクションプラン

課 題	対 応
3 一年間を振り返って、 について	
4 まわりとの関係、について	
5 将来に向けてについて	
6 大学時代の成果について	

2年次を終えてのアクションプラン

課 題	対 応
3 一年間を振り返って、 について	
4 まわりとの関係、について	
5 将来に向けてについて	
6 大学時代の成果について	



3年次を終えてのアクションプラン

	課 題	対 応
3 一年間を振り返って、 について		
4 まわりとの関係、について		
5 将来に向けてについて		
6 大学時代の成果について		

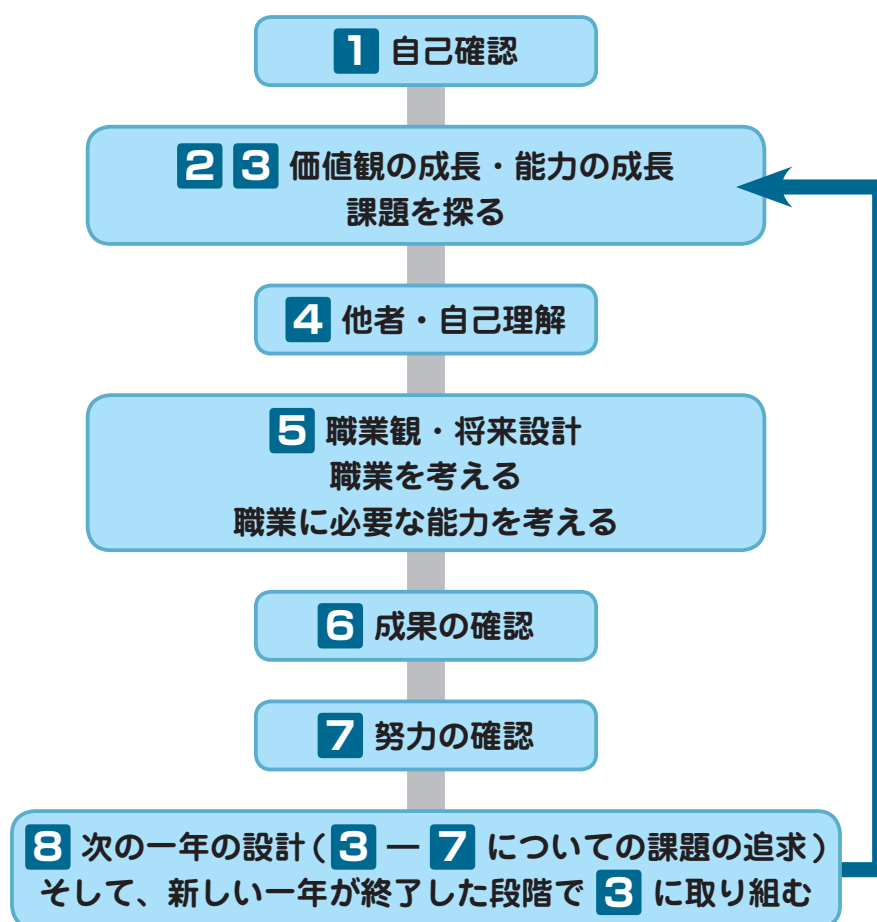


I.9 YNUキャリアデザインファイルの仕組み・考え方について

「キャリアデザイン」とは、皆さんが自分の将来の生き方（キャリア）を考え、そのために何をすればいいのかを定めて実行する（デザイン）ことを指しています。同じ人間がこの世に二人と存在しないのですから、「こうでなければならない」というキャリアデザインは存在しない、と言えるでしょう。ですから、YNUキャリアデザインファイルの目的は「何を目指して、何と取り組むべきか」を見つけ、それを発展させるきっかけを提供することです。

キャリアデザインシートは、まず大学における原点である入学時に、自分を確認してもらうことからスタートしています。

その後、いろいろな項目が続いていますが、概ね次のような意味をもつ流れとして構成されています。あなた個人にとって必要な視点が欠けているかもしれません。お渡ししたファイルに真剣に考えて記入するだけでなく、自分専用の仕組みに修正することも、実はキャリアデザインの重要な取り組みです。じっくり取り組んで下さい。



I.10 就職とYNUキャリアデザインファイル

このファイルは、皆さんが自律的な学生に育つ手助けとなるように設計したものです。大切にしたのは、自ら問題点を発見し、そしてそれを解決する手段を考えて定め、実行する、PDCA（立案（Plan）－実行（Do）－点検（Check）－行動（Action））のサイクルを実現してもらうことでした。皆さんの人生にとって大切な、就職について自律的に考える仕組みもこのファイルに含まれています。そして、このファイルは就職へのツールとしての機能を持っています。

企業の学生採用の方式が昔とは異なってきました。以前は、まず企業を訪問することが就職活動の第一歩でした。現在でも企業訪問は大切な活動の一つですが、多くの企業ではそれに先だって、「大学生活をどのよう過ごしたのか」、「何に取り組んだのか」、「それから何を得たのか」等の項目を含むことが多い、エントリーシートとよばれる書類…一種のレポート・作文と言えるかもしれません…の提出を求めるようになりました。

大学生として自らがどう過ごすのかどのように考えたのか、そして結果的にどう過ごしたのかが確認できる、YNUキャリアデザインファイルと取り組むことは、実は就職活動への確かな第一歩を築くことでもあるといえるでしょう。

（学生支援課が発行している「就職活動の手引き」もご参照下さい。）

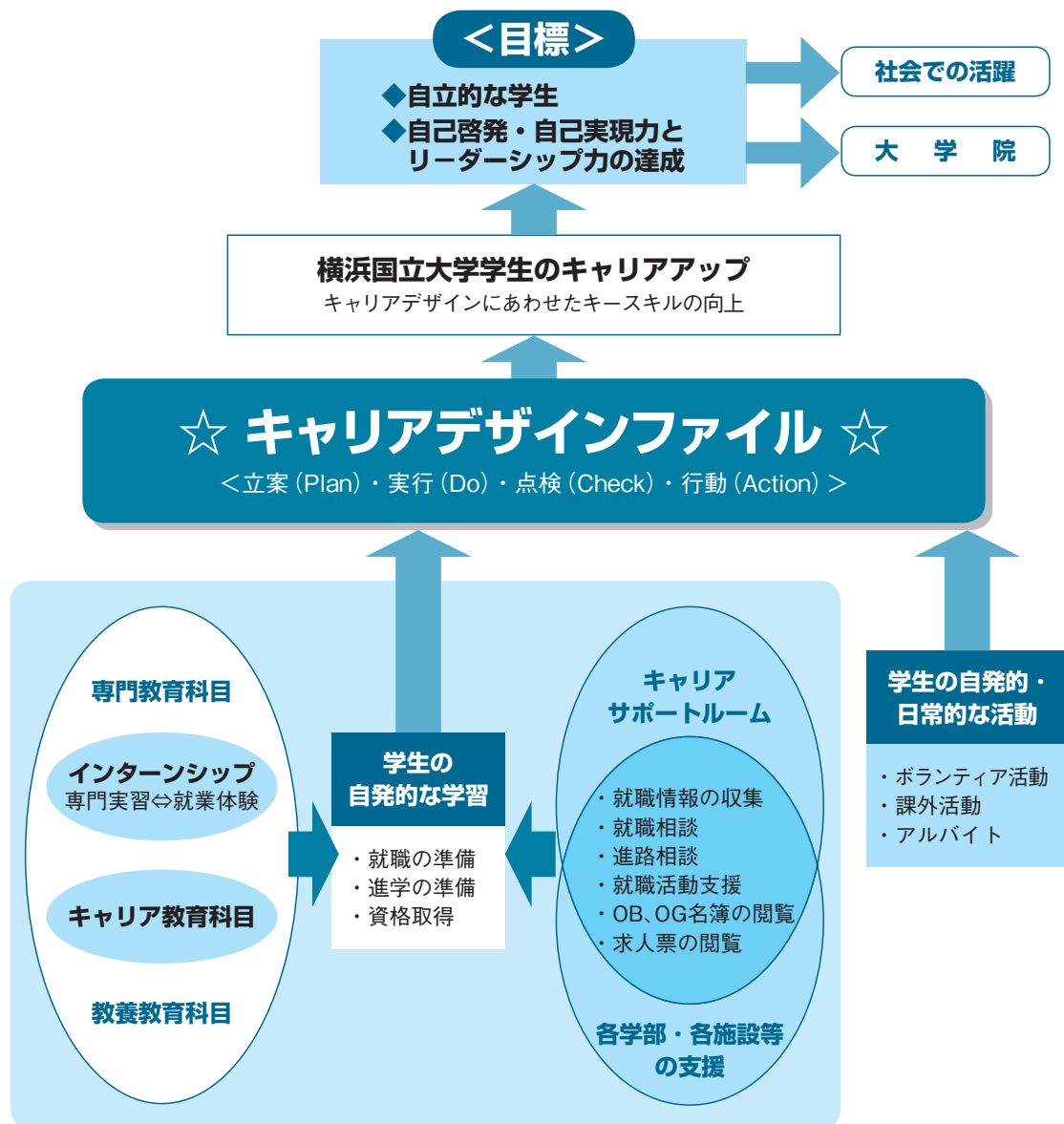


II



資料編

Ⅱ.1 キャリアサポートシステム



○ **キャリアサポートルーム** (<http://www.ynu.ac.jp/career/support/room.html>)

- ・ キャリア・アドバイザー（本学OB・OG）による就職相談；毎週火・水・木曜日（13：30～16：30）
- ・ キャリア・サポーター（在学生）によるガイダンス
- ・ キャリア・サポーター（内定者）による就職相談
- ・ 教員採用試験対策講座
（国大出身の先輩たちが、豊かな経験と現場で得た情報を生かした傾向と対策・相談）
- ・ ガイダンス、セミナー、講座等運営

○ **オフィスアワー**；各学部の履修案内及びシラバスを参照

○ **附属図書館**；ホームページ (<http://www.lib.ynu.ac.jp>) 参照

○ **情報基盤センター**；ホームページ (<http://www.itsc.ynu.ac.jp>) 参照

Ⅱ.2 Webサイト（各学部独自のキャリアデザインサポート）

大学全体として取り組んでいるキャリアデザインサポートの仕組みに加えて、各学部では学部の特徴に合わせた独自のキャリアデザインサポートが行われています。

詳細については各学部のホームページや事務窓口にお問い合わせください。

大学としての取組み

- ・ Career Education : <http://www.cgp.yanu.ac.jp/>

教育人間科学部

- ・ キャリア開発講座 : 就職支援室（第1研究棟1階）へお問い合わせください。

経済学部

- ・ 経済学部のキャリアデザインサポート : <http://www.econ.ynu.ac.jp/career/index.html>

経営学部

- ・ 経営学部のキャリアデザインサポート情報
（教育プログラム・インターンシップ情報の紹介などを提供するページ）
「[横浜国立大学経営学部キャリア教育](http://www.business.ynu.ac.jp/contents/intern/)」 : <http://www.business.ynu.ac.jp/contents/intern/>

理工学部

機械工学・材料系学科 : <http://www.es.ynu.ac.jp/academic/dep/dep1.html>

化学・生命系学科 : <http://www.es.ynu.ac.jp/academic/dep/dep2.html>

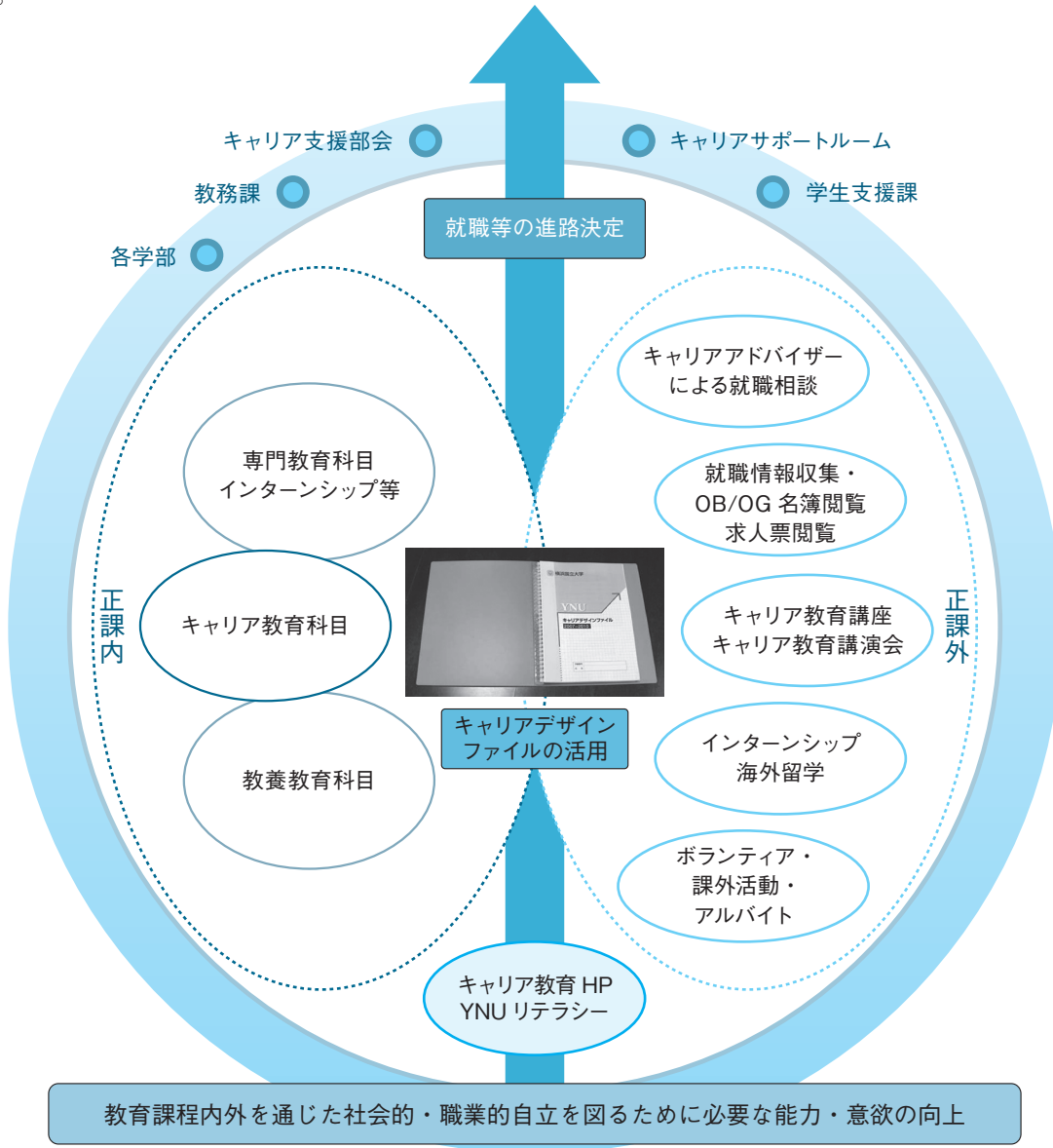
建築都市・環境系学科 : <http://www.es.ynu.ac.jp/academic/dep/dep3.html>

数物・電子情報系学科 : <http://www.es.ynu.ac.jp/academic/dep/dep4.html>

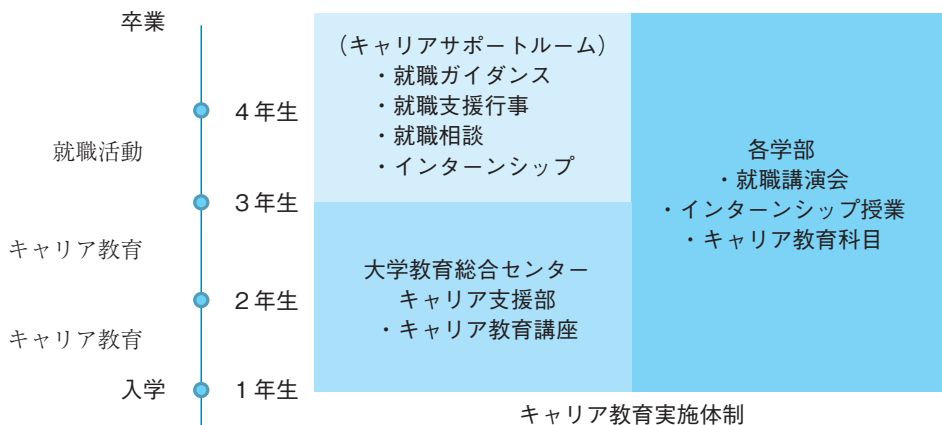
Ⅱ.3

本学のキャリア教育

大学は、皆さんのキャリアを形成していく場とも言えます。本学には、キャリアデザインに応じた様々な授業科目がありますが、自分のキャリアデザインを意識し、明確な目的意識を持って学ぶことが大切です。



教育課程内外を通じた社会的・職業的自立を図るために必要な能力・意欲の向上



キャリア教育実施体制

キャリア教育科目

キャリアデザインの基礎となる知識や力を養うことを意図した主な「キャリア教育科目」としては、以下のような授業科目があります。

【キャリアデザイン志向科目】 学生が授業によってキャリアデザインすることを教育目的とする。

教養教育科目	専門教育科目（学部）
社会の変化と自己啓発A、B	教職入門（教育）
リーダーシップ論	キャリア形成論（経済）
材料学入門	物理工学と先端技術（理工）
機械工学と社会のかかわり合い	技術者倫理ワークショップA、B（理工）
安全・環境と社会	

【学外と連携・協働したキャリアデザイン志向科目】 学外の知見に接して、大学内にとどまらない広い視野を獲得し、キャリアデザインに活かすことを教育目的とする。

教養教育科目	専門教育科目（学部）
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	今、教師に求められるもの（教育）
ベンチャーから学ぶマネジメント	資本市場の役割と証券投資（経済）
システム・エンジニアリング	社会における実践体験－富丘会メッセージ（経済・経営）
情報通信技術が培う近未来医療	物理キャリアアップ（理工）

【キャリアデザイン関連科目】 アカデミックな教育目的だが、キャリアデザインにつながる視野や洞察を深める。

教養教育科目	専門教育科目（学部）
アカデミックリテラシー	教育社会学（教育）
教育ボランティア入門	消費生活論（教育）
障害者支援ボランティア入門	家族関係学（教育）
地域連携と都市再生A、B	人間と地球社会（教育）
特別活動研究	社会分析の技法（教育）
社会科学概論A、B	文化マネジメント論（教育）
心理学A、B	現在経済システム（経済）
日本国憲法	世界経済論（経済）
法学概論	企業と社会（経営）
現代と法	現代企業論（経営）
教育と法	総合応用工学概論（理工）
土木工学と社会	先端電子情報工学（理工）
物質工学と社会	建築史演習（理工）
電子情報システム概論	生態学社会実習（理工）
情報工学概論	インベスティゲーション実習（理工）
海洋工学と社会	プレゼンテーション実習（理工）
都市と建築	建設のプロジェクトマネジメント（理工）
逸脱行動の社会学	
現代の物流経営	
現代政治（日本）	
現代政治（国際）	
現代の経済A、B	
倫理学	
アカデミック・トークA～D	

【実践・就業体験志向科目】 実践・就業体験を通して、仕事や自分をみつめ直す。

教養教育科目	
地域課題実習Ⅰ・Ⅱ	
専門教育科目（学部）	
学外活動・学外学習Ⅰ～Ⅲ（教育）	マイ・プロジェクト・ランチャー（経営）
教育実習Ⅰ～Ⅴ（教育）	マーケティング・プラクティス（経営）
実習・事前、事後指導（教育）	機械工学インターンシップ（理工）
初等フィールドワーク研究（教育）	材料工学インターンシップ（理工）
インターンシップ（経済）	物理工学インターンシップ（理工）
インターンシップ（経営）	学外実習（理工）

Ⅱ.4 インターンシップ

インターンシップは、大まかに言えば「就業・活動の体験・実践」です。

大学教育の一環としてインターンシップを行う目的の一つは、「体験・実践」です。すなわち、卒業後に身をおくであろう実社会の活動を事前に体験し、大学で学んでいることと実社会の活動との意識の中の乖離をなくすこと、学んだことを「実践」に役立てる「体験」を積むこと、この体験を通じて学ぶ動機や意欲を喚起すること、さらに、卒業後は、無理なく実社会に馴染んでいけるようにすることです。従って、「体験・実践」を目的としてインターンに参加するのは、必要な学問を大学で相当程度学んだ後になります。これは、社会に出る準備として、大学において学んだ事柄が実社会の様々な活動の中でどのように生かされているか、生かしていくことができるかを知るためには、ある程度前提となる知識が必要だからです。

もう一つの目的は、「学び・気づき」です。それは、実社会での活動・就業の中で、大学の中ではなかなか学ぶことができない「実践の中での知」、「実社会で必要とされること」、「自分のキャリア・デザインに必要なこと」を学び、それらをフィードバックすることによって、目的意識を持って積極的に学ぶ姿勢を培う、ということです。

インターンシップには、企業が独自に公募するもの、インターンシップコーディネイト団体が仲介を行うもの、大学が募集するものと様々です。最近では、大学3年次の夏休みを利用したインターンシップが多くなっていますので、参加を希望される学生は、インターネット等から検索してみてください。

なお、本学の一部の学部等では、授業科目として「インターンシップ」を位置づけ、単位認定を行っている学部もあります。詳細は各学部等の履修手引等を参照してください。

●本学の授業科目として位置づけられているもの

教育人間科学部	学外活動・学外実習Ⅰ
経済学部	インターンシップ
経営学部	インターンシップ
理工学部	機械工学インターンシップ（機械工学EP） 材料工学インターンシップ（材料工学EP） 建築史演習（建築学EP） 学外実習（都市基盤EP、電子情報システムEP） 物理工学インターンシップ（物理工学EP）

EP：教育プログラム

●資格取得のための要件であり、本学の授業科目として位置づけられているもの

教育人間科学部	教育実習 博物館実習
経済学部	教育実習
経営学部	教育実習
理工学部	教育実習

●平成23年度インターンシップ

大学が募集したもの

国、地方自治体等

文部科学省、外務省、経済産業省、神奈川県、東京都、横浜市、長岡市、島田市

民間企業等

ホテル・ニューグランド、ロイヤルホール、横浜銀行、横浜信用金庫、そごう・西武、富士シティオ、崎陽軒、タカナシ乳業、ボンパドウル、八千代ポトリ、有隣堂、神奈川トヨタ自動車、神奈川日産自動車、横浜トヨペット、三菱重工業横浜製作所、日本発条、NTT東日本-神奈川、丸全昭和運輸、バンテック、タウンニュース社、税理士法人アイ・パートナーズ、ハイマックス、テルム、富士通ワイエフシー、海外貿易開発協会、横浜YMCA、ロイヤルパークホテル、湘南技術センター、I H I、山武、三井住友海上火災、東芝横浜事業所、東芝京浜事業所、岡村製作所、中日本高速道路

●インターンシップ情報等検索サイト 国内

@インターンシップ (<http://www.at-internship.com/>)

みんなのインターンシップ (「みんなの就職活動日記」内) (<http://intern.nikki.ne.jp/>)

インターンシップ.net (大学生応援ポータル「DO-CAMPUS」内) (<http://intern.do-campus.net/>)

産学プラザ (<http://www.sangakuplaza.jp/>)

職業別インターンシップ (<http://www.1st-internship.jp/>)

INTERPERSONAL (<http://www.interpersonal.jp/>)

デジット (<http://www.digit.co.jp/>)

II.5 キャリア教育書籍について

みなさんに取り組んでもらうキャリアデザインファイルの意義をより深く理解してもらうために以下の本を挙げてみました。ここに挙げた本をきっかけに自分の仕事への興味・関心を見出してみませんか。

1 キャリアデザインを考えるのに読みやすい本はないの？

安野モヨコ『働きマン』講談社モーニングKC 各514円（税別）

モーニングに連載されているマンガで、単行本は2008年1月現在4巻まで出ています。週刊誌女性記者をとりまく人々が、各自の仕事にどう向き合っているのかを描いています。

B-i n g編集部『プロ論。』『プロ論。2』『プロ論。3』徳間書店 各1600円（税別）

リクルートの『B-i n g』連載の著名人からの生き方・働き方アドバイスをまとめたものです。そのアドバイスが「仕事でヒットを飛ばしたいとき」や「やりたい仕事が見つからないとき」のように項目別に整理されています。

山本直人『大学生のためのキャリア講義』インデックス・コミュニケーションズ 2007年 1575円

キャリアとは何か、働くこと、自分自身をつくることといった事柄を、著者が実際に大学で行った講義を再現する形で紹介しています。受講学生からの質問への答えも盛り込んでいます。

原田翔太『勉強のルール28歳までに結果を出す！』アスコム 2009年 1429円（税別）

日々の学びが成果につながるには、20代の勉強法が重要と説く著者。ノートや手帳の活用、読書法、だけに留まらず、ブログやSNS、さらにはツイッターやiPhoneの活用術まで紹介した「結果を出すまでの勉強法」について紹介しています。

ティナ・シーリグ（著）、高遠裕子（翻訳）『20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義』阪急コミュニケーションズ 2010年 1400円（税別）

スタンフォード大学での講演とワークショップの内容をベースに、社会に出たとき知っておくとよい物事の見方、考え方、行動上のヒントが示されています。

2 なぜ働かないといけないの？

中島義道『働くことがイヤな人のための本』新潮文庫 2004年 400円（税別）

哲学者の中島が、仕事に生きがいを見出せない人との想定問答を通して、働くとは何なのかを考えています。

玄田有史『14歳からの仕事道』理論社YA新書 2005年 1200円（税別）

ニートの紹介者として有名な労働経済学者が、14歳くらいの年齢層にも分かるように働く意味について書いたものです。

稲泉連『僕らが働く理由、働かない理由、働けない理由』文春文庫 2007年 552円（税別）

「社会」に違和感や不安を抱きながらも人生を模索する同世代の若者を、著者自身が取材をし、社会とは何か、働くとは何かを、引きこもりや不登校から働く人へと転向した実体験を描いています。

大場健『いま、働くということ』ちくま新書 2008年 780円（税別）

哲学者、倫理学者である著者が、「何のために働くのか？」という問いに対して、いのちの再生産という視点を踏まえて論じています。

3 キャリアデザインって何なの？

金井壽宏『働くひとのためのキャリアデザイン』PHP新書 2002年 780円（税別）

経営学者の金井が、人生の節目に自分を見つめ直し、将来の方向性をじっくり考える「キャリアデ

ザイン」を薦めています。

上西充子・柳川幸彦『キャリアに揺れる』ナカニシヤ出版 2006年 1500円（税別）

法政大学キャリアデザイン学部のキャリアカフェに展示しているおすすめの本を30冊紹介しています。

高橋俊介『キャリアショック』SB文庫 2006年 650円（税別）

タイトルにある「キャリアショック」とは、自分の描いてきたキャリアの将来像が、予期しない環境や状況の変化により、短期間のうちに崩壊してしまうことだ、と著者は述べています。キャリアショックに備えていくための自分にとって好ましい変化をどう仕掛けていけばよいかについて論じた本です。

所由紀『偶キャリ。—「偶然」からキャリアをつくる』経済界（新書）2008年 857円（税別）

キャリア創造のプロセスには、「たまたま」や「偶然」の出来事や出会いをきっかけにできるような直感を磨くことが必要であることを、実例をもとに分析しています。

4 大学で学ぶことは役に立つの？

矢野眞和『教育社会の設計』東京大学出版会UP選書 2001年 2000円（税別）

「学校の知識がなぜ役に立たない」と思われているのか、学校知識の隠蔽説で説明しています。

竹内薫『99.9%は仮説』光文社新書 2006年 700円（税別）

科学の基本とは「世の中ぜんぶ仮説にすぎない」と著者はいう。科学とは何か？を問いつつ、大学での学びについて考えてみてはいかがでしょう。

苅部直『移りゆく「教養」』NTT出版 2007年 2200円（税別）

「教養」の論じられ方をめぐる変遷を検証しつつ、今後のあり方について論じた書。大学の「教養」についても触れています。

浦坂純子『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのか—キャリアにつながる学び方』2009年ちくまプリマー新書 760円（税別）

何のために学ぶのか、大学で本当に身につけるべき「チカラ」とは何か、大学進学の特典や大卒労働市場の動向も踏まえつつ、書いています。

5 大学生の就職はどうなっているの？

安田 雪『大学生の就職活動』中公新書 1999年 660円（税別）

少し古いですが、就職活動の背後にある社会的要因から就職問題を解き明かしています。

小杉礼子『大学生の就職とキャリア』勁草書房 2007年 2200円（税別）

学生はどのような就職行動をとり、大学の支援はいかなる効果を及ぼしているのかについて、2万人近い大学生のデータと大学の就職指導の調査をもとに、大学教育とキャリア形成支援のあり方を検討しています。

香山リカ『就職がこわい』講談社+α文庫 2008年 590円（税別）

精神科医の香山が在職している大学の学生を相手にする中で、彼ら若者が就職に向き合いたくなくなっている状況を分析しています。

常見陽平『くたばれ！就職氷河期 就活格差を乗り越えろ』角川SSC新書 2010年 780円（税別）

本書は、学校間格差、男女間格差、有名大学の中にもある学部間格差など、就職活動に関するデータや、実際に企業、大学などを取材した内容を踏まえながら、適切な「就活」とは何かを論じています。

Ⅱ.6

キャリア支援関連行事日程 (平成24年度予定)

2012年		就職支援講座
4月		就職支援講座：「自分の将来について考えてみよう①」
5月～6月	教職志望	教職を目指すにあたって (全6回予定)
5月21日 (月)		第1回就職ガイダンス：「就職の手引き」等配布、就職活動の進め方と心構え (DVD上映)
5月22日 (火)		
5月28日 (月)		就職活動対策講座「就活の進め方の戦略を練る (就職活動必勝法の伝授)」
5月29日 (火)		インターンシップ講座
6月4日 (月)		キャリアの学校①「企業研究の新たな視点が楽しみながら身につく講座」
6月5日 (火)		留学生のための就職ガイダンス①
6月6日 (水)	公務員志望	公務員ガイダンス①
6月7日 (木)		自己分析セミナー①「職務適性テスト受験」
6月11日 (月)		業界・企業研究セミナー①「自分と仕事を繋げるカイシャ研究」
6月14日 (木)		キャリアの学校②「企業研究の新たな視点が楽しみながら身につく講座」
6月15日 (金)	マスコミ志望	業界・企業研究セミナー②「マスコミ対策講座」
6月19日 (火)	IT・ベンチャー志望	業界・企業研究セミナー③「IT・ベンチャーを目指す!!」
6月25日 (月)		4年生・修士2年生向け就職ガイダンス「これから先の動き方を解説」
6月26日 (火)		コミュニケーション能力開発講座①
6月28日 (木)		自己分析セミナー②「適性テストの結果を踏まえた考え方」
6月29日 (金)		キャリアの学校③「企業研究の新たな視点が楽しみながら身につく講座」
7月2日 (月)		業界・企業研究セミナー④「夏休みに考える業界研究・企業研究」
7月3日 (火)		留学生のための就職ガイダンス②
7月4日 (水)		就職支援講座：「自分の将来について考えてみよう② (理系学生の進路について考える)」
7月5日 (木)		キャリアの学校④「企業研究の新たな視点が楽しみながら身につく講座」
7月6日 (金)		就職活動対策講座「先輩の動きから読み取る。2014年卒就活生が対処すべきこと」
7月10日 (火)		コミュニケーション能力開発講座② (理系学生向け)
7月11日 (水)		キャリアの学校⑤「企業研究の新たな視点が楽しみながら身につく講座」
7月12日 (木)		業界・企業研究セミナー⑤「会社四季報から読み解く企業研究」
7月17日 (火)		自己分析セミナー③「自己分析のまとめ方」
7月18日 (水)		コミュニケーション能力開発講座③「グループワーク練習会」
7月20日 (金)		就職活動対策講座 人事担当者公開インタビュー ～就活突入前の学生生活に期待すること～
10月10日 (水)		第2回就職ガイダンス「具体的な就職活動の方法と適職探しのヒント」
10月11日 (木)		
10月12日 (金)		ビジネスマナー講座
10月～11月		仕事研究セミナー「業界・企業研究の実践」(全14回予定)
10月18日 (木)		留学生のための就職ガイダンス③
10月23日 (火)		筆記試験対策講座①「SPI2テスト模擬試験」
10月24日 (水)		内定者によるパネルディスカッション①
10月30日 (火)		自己分析セミナー④「職務適性テスト受験」
11月7日 (水)		OB・OGパネルディスカッション①
11月9日 (金)		業界・企業研究セミナー⑥「業界研究の考え方をおさらい」
11月12日 (月)		就職活動対策講座「採用担当者はココを見ている」
11月13日 (火)		OB・OGパネルディスカッション②
11月15日 (木)		内定者によるパネルディスカッション②
11月19日 (月)		筆記試験対策講座②「SPI2テスト模擬試験」
11月26日 (月)		就活オープン直前！準備講座
11月27日 (火)		エントリーシート対策講座①「人事担当者はエントリーシートのここを見る」
11月30日 (金)		グループディスカッション対策講座
12月～1月		学内合同企業説明会 (全11回予定)
12月～1月		業界別就職セミナー (業界別に全8回 16社参加予定)
12月～1月	公務員志望	公務員ガイダンス (人事院・東京都・神奈川県・特別区・横浜市 等全5回予定)
12月～1月		面接対策講座 (全4回予定)
12月～2月	教職志望	教職を目指すにあたって (全7回予定)
12月10日 (月)		就職活動の動き方説明講座
12月13日 (木)		内定者によるパネルディスカッション③
12月17日 (月)		エントリーシート対策講座②「実践編」
1月8日 (火)		グループディスカッション練習会
1月9日 (水)		エントリーシート対策講座③「最終チェック編」
1月22日 (火)		グループワーク練習会
2月15日 (金)	公務員志望	公務員ガイダンス「公務員試験模擬試験」

※上記予定は、追加や訂正の可能性があります。

キャリア相談週間等 (予定)

平成24年 4月9日 (月)

}

4月27日 (金)

キャリア相談週間 (問合せ先: キャリアサポートルーム又は教務課)

10月1日 (月)

}

10月12日 (金)

キャリア相談週間 (問合せ先: キャリアサポートルーム又は教務課)

Ⅱ.7

キャリア支援関連行事日程（平成23年度実績）

実施期日	内 容
平成23年5月11日(水) ～6月22日(水)	教職を目指すにあたって(春学期)(教職希望者向け) 5/11、5/18、5/25、6/8、6/15、6/22
5月13日(金)	インターンシップ対策講座
6月7日(火)	理系向け仕事研究セミナー「研究・開発の仕事」
6月9日(木) 10日(金)	第1回就職ガイダンス
6月13日(月)	第1回公務員ガイダンス(公務員試験突破法と試験スケジュール)
6月16日(木)	理系向け仕事研究セミナー「システムエンジニアの仕事」
6月17日(金)	マスコミ業界対策講座
6月21日(火)	第1回留学生のための就職ガイダンス
6月23日(木)	就職先の探し方!4年生・修士2年生向け就職対策講座
6月24日(金)	理系セミナー(理系進路説明会)
6月27日(月)	理系向け仕事研究セミナー「生産技術の仕事」
7月1日(金)	理系セミナー コミュニケーション能力開発講座
7月4日(月)	理系セミナー 経済産業省説明会
7月7日(木)	会社四季報から読み解く企業研究講座
7月8日(金)	理系向け仕事研究セミナー「実は活きる工学系人材の仕事」
7月12日(火)	夏休みに考える業界研究・企業研究講座
7月14日(木)	夏休みに行いたい自己分析講座
10月12日(水)	第2回就職ガイダンス(文系向け)
10月13日(木)	第2回就職ガイダンス(理系向け)
10月17日(月)	仕事研究セミナー:職種編「企画の仕事」
10月18日(火)	第2回留学生のための就職ガイダンス
10月19日(水)	仕事研究セミナー:職種編「営業の仕事」
10月20日(木)	仕事研究セミナー:職種編「総務・人事の仕事」
10月25日(火)	仕事研究セミナー:職種編「経営の仕事」
10月26日(水)	企業研究のための新聞の読み方講座
10月27日(木)	理系セミナー(財務省説明会)
10月28日(金)	第1回キャリア・サポーターによる就職座談会
10月31日(月)	仕事研究セミナー:業界編「マスコミ関係」
11月1日(火)	仕事研究セミナー:業界編「メーカー関係①」
11月2日(水)	仕事研究セミナー:業界編「メーカー関係②」
11月7日(月)	仕事研究セミナー:業界編「レジャー・エンタメ関係」
11月8日(火)	就職活動対策講座「就職担当者はココを見ている!」
11月9日(水)	仕事研究セミナー:業界編「インフラ関係」
11月10日(木)	パネルディスカッション(5社OB・OG)
11月11日(金)	パネルディスカッション(5社OB・OG)
11月14日(月)	理系セミナー「理系学生向けの自己表現講座」
11月15日(金)	筆記試験対策(適性診断模試)
11月16日(水)	仕事研究セミナー:業界編「素材・エネルギー関係」
11月17日(木)	グループディスカッション対策講座
11月18日(金)	仕事研究セミナー:業界編「通信・IT関係」
11月21日(月)	仕事研究セミナー:業界編「専門商社・流通関係」
11月22日(火)	業界研究・企業研究の総点検講座
11月25日(金)	就職活動対策講座「人事担当者はエントリーシートのここを見る」
11月28日(月)	第2回公務員ガイダンス「神奈川県」 第2回キャリア・サポーターによる就職座談会
11月29日(火)	第3回公務員ガイダンス「特別区」 第3回キャリア・サポーターによる就職座談会(商社編)
11月30日(水)	就活オープン直前!準備講座
12月1日(木) ～1月20日(金)	合同企業説明会(毎回20社以上の優良企業が学内に集まる企業説明会) 12/1、12/7、12/12、12/13、12/19、1/11、1/16、1/17、1/20
12月2日(金) ～1月30日(月)	業界別就職セミナー(国大生に人気の企業が業界別に1日1社説明会を開催) 12/2、12/5、12/6、12/8、12/9、12/14、12/15、12/20、12/21 1/10、1/19、1/24、1/25、1/26、1/30
12月7日(水) ～2月1日(水)	教職を目指すにあたって(秋学期)(教職希望者向け) 12/7、12/14、12/21、1/11、1/18、1/25、2/1
12月7日(水)	第4回公務員ガイダンス「東京都庁」
12月16日(金) ～1月27日(金)	面接対策講座(計4回) 12/16、1/12、1/18、1/27
12月19日(月)	第5回公務員ガイダンス「横浜市」
12月22日(木)	筆記試験対策講座(SPI2模擬試験)
2月17日(金)	第6回公務員ガイダンス(公務員試験模擬試験)

大学教育総合センター英語教育部の活動の柱の一つに、「英語学習相談」があります。これは、学部や学年を問わず英語科目の履修や授業外の英語学習について、個々の学生からの相談に応じるものです。

英語実習科目の履修や再履修指導以外にも、学生の自学自習に関連する、以下のような相談を受け付けています：

- 英語実習科目において授業での理解が十分ではなかったことからの補習
- 海外留学や大学院進学を目指すTOEFLやTOEICなどの英語資格試験対策
- 海外で実施されるインターンシップや語学研修、ボランティア活動、外資系企業へのエントリー等の際に必要な、申し込み書類や英文履歴書の作成支援(翻訳の代行は行いません)
- 実戦的な会話学習指導

相談は予約制です

英語学習相談は、原則、メールもしくは電話にて事前予約を行い（メール：eigokyoiku@ynu.ac.jp、電話：045-339-3135）、面談の日時を決定して英語教育部所属の教員が対応します。

英語教育部情報web

英語教育部情報webは（<http://jen1.yec.ynu.ac.jp/students/>）、英語履修・再履修に関する掲示文書、英語学習教材に関する情報、CALL教室の利用状況、授業支援システム(Jenzabar, Web Bulletin Board)や英語実習関連の授業サイトへのリンク、等を提供しています。ぜひ「お気に入り」に登録してください。

The screenshot shows the website interface for the English Education Center. It includes a navigation menu, a 'What's NEW' section with a list of news items, a 'LINKS' section with various resources, and a '英語学習相談室' (English Learning Consultation Room) section with a 'リレーメッセージ' (Relay Message) and a '最近何に驚いたって' (What surprised me recently) article.



英語学習相談室に来るには？

中央図書館を正面に見て、右手の坂を上り、途中、パソコン教室CDを通り過ぎます。坂を上りきったところで左を向くと、センターの看板が見えます。矢印に従って建物内に進んでください。

Ⅱ.9 図書館の活用

大学生として、幅広く情報を集めて上手に使いこなす能力（これを「情報リテラシー」といいます。）を身につけることはとても大切です。図書館はみなさんがそうした能力を身につけるための強い味方です。

新聞・雑誌に目を通そう

中央図書館の2階リフレッシュルームには、「朝日新聞」「産経新聞」「日本経済新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「神奈川新聞」「Japan Times」などが揃っています。また、3階の雑誌閲覧フロアには、キャリア・デザインにも役立つ多くの雑誌が並んでいます。新聞や雑誌を活用して、広く社会の動向や最新のニュースなどに目を通す習慣を身につけましょう。

自分に役立つ本を探そう

大学にはみなさんのキャリアデザインに役立つ図書が多数存在します。オンライン蔵書検索システム（Online Public Access Catalogの頭文字をとってOPACと呼ばれます。）を使って、書名や著者名、キーワードなどで自分に必要な本や雑誌などを探してみましょ。

OPAC : <http://opac.lib.ynu.ac.jp/>

また、大学に無い本でも「神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）」で、県立図書館をはじめとした県内の公共図書館などから無料で取り寄せることもできます。

図書館職員のサポートを活用しよう

●企画展示「大学生活に役立つ本」

図書館の職員が、その時々合ったテーマを決めて、図書館蔵書の中からみなさんにお勧めしたい本を選んで、一定期間中央図書館2階で紹介するものです。これまでに「**新学期**」「**図書館活用術**」「**レポート・論文作成**」「**就職**」「**図書館職員おすすめ本**」といったテーマで開催し、展示された本は多くの学生に利用されています。

●「わが大学の研究」コーナー

横浜国立大学の刊行物や教員・卒業生の著作を並べたコーナーが中央図書館2階に設けられています。大学の教育・研究活動の状況や卒業生の活躍状況などを知る手助けになります。

●図書館活用サポート（講習会）

みなさんが、図書館をより有効に活用できるよう、図書館職員が新入生向けの利用案内や館内ツアー、以下のような講習会などを実施しています。

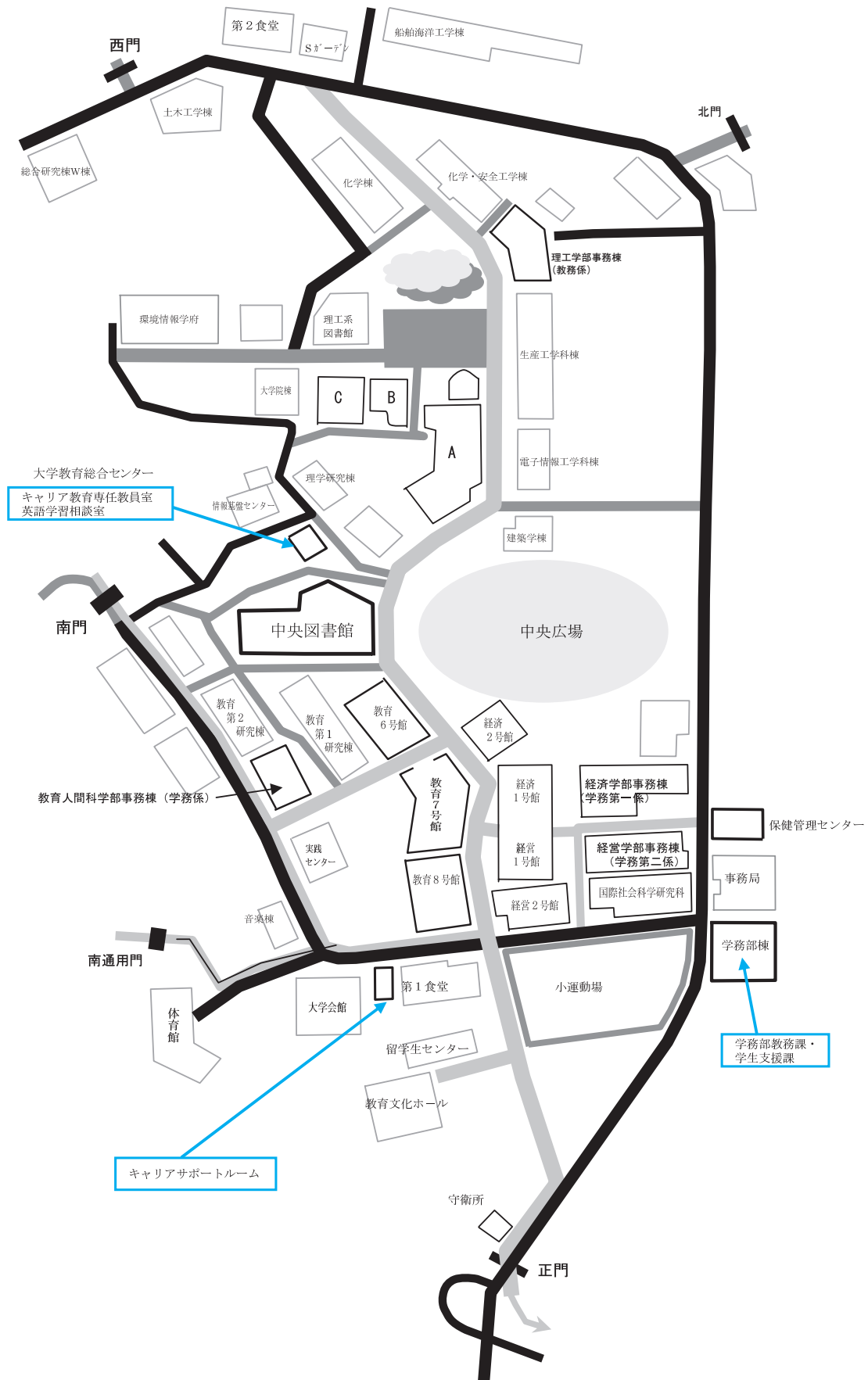
資料の探し方…………… OPACによる本学蔵書の検索～利用までの方法。他の図書館の蔵書の検索～利用の方法。

論文・記事の探し方…………… 雑誌論文・新聞記事検索のためのオンラインツールの利用方法。

調べもの実習…………… 目的にあった参考図書やオンライン・データベースを選択し利用する方法。

レポート・論文の作成方法… 一般的なレポートや論文を書くためのステップや基本的なルール。

この他にも、カフェや情報ラウンジ、メディアブース、ワーキングスタジオ、PCプラザなどの多くの施設や様々な資料を備えた図書館を、大学生活で上手に使いこなしてください。





Our Career Design

私たちの キャリアデザイン

キャリアデザインファイルコンテスト2011
受賞作品掲載

「先輩はキャリアデザインファイルをどのように使ったのだろうか？」

いざ自分が使おうとすると、他の人がどのように使ったのか気になるかもしれません。

それをみなさんに知ってもらいたくて、キャリアデザインファイルコンテストを開きました。前半部分はその応募作品を掲載します。ここに掲載された先輩方は、いろいろ悩みながらも、現時点での自分の立ち位置を確認できています。いわば応募作品は現時点での先輩方の成長の証です。みなさんも是非、先輩方のように自分と向き合ってみてください。我々はその成長を暖かく応援したいと考えています。

また後半のコラムは、ティーチングアシスタントの大学院生がキャリア教育科目を紹介しています。授業担当の教員の視点とは違う捉え方になっていると面白いですね。

キャリア教育書籍については、学部生に書いてもらっています。

理工学部と経営学部の内容は、担当する教員に紹介コラムを書いてもらいました。

このコラムを読んでもらえば、キャリアデザインをし、キャリア教育を受けることの面白さが分かるのではないのでしょうか。

今年度取り上げたのは以下の科目・書籍です。

キャリアデザインファイルコンテスト2011受賞作品

- 001 「私とキャリアデザインファイル」
- 002 「キャリアデザインファイルの活用のための提言」

キャリア教育科目

- 003 「逸脱行動の社会学」
- 004 「倫理学」
- 005 「教育社会学」
- 006 「人間と地球社会」
- 007 「教育実地研究（国語）」
- 008 「教育実地研究（音楽）」
- 009 「教育実地研究（教育基礎）」
- 010 「教育実地研究（心理発達）」
- 011 「消費生活論」
- 012 「学外活動・学外実習Ⅰ」
- 013 「学外活動・学外実習Ⅱ」
- 014 「経営学部ビジネス・キャリア教育プログラム」
- 015 「理工学部のキャリア教育科目」

キャリア教育書籍

- 016 「働きマン」
- 017 「働くことがイヤな人のための本」
- 018 「就職がこわい」

キャリアデザインファイルコンテスト2011受賞作品

「私とキャリアデザインファイル」

学部改編によって途切れてしまったが、教育人間科学部、中でも我が国際共生社会課程には、とある“伝統”があった。1・2年次に計3回行われる、担当教授2名による面談型チュートリアル。成績が手渡される一大イベントでもあるのだが、そんな緊張の時間を前に、私たちが行わなければならないこと…。そう、家探しである。

目的は、入学時に配られたキャリアデザインファイル。持ち物に、記入済みのキャリアデザインファイルのコピーが指定されているのである。必要なのは、以下の4つ。

- ①高校時代や入学時、大学生生活の1年間の振り返り頁
- ②まわりとの関係目に向け、整理してみる頁
- ③将来に向けて考えたことを記入する頁
- ④アクションプランを記入する頁

それまで本棚や収納の奥深くに眠っていたファイルを慌てて掘り起こす。勿論、中には紛失したり課題自体をすっかり忘れていた人だっていて、そんな人はパソコンで対象ページをダウンロードしたり、友人から借りてコピーをしなければならない。面談会場である研究棟の机のスペースには、必死に筆を走らせる学生の姿も多くみかけたものだ。

かくいう私も、毎度のように前日深夜に記入を始めるわけだが、これがなかなか進まない。面談時間はたったの15分程度。提出したところで、その間に記入した内容に触れる機会はほとんどないわけだから、正直申し訳程度に済ませることだって可能なはずなのに。

性格的なこともある。思い起こせば小中高生時代も、学活やLHRに書かれた振り返りシートの記入が人よりも遅かった。文章にする、というのも原因の1つだ。自分の思いや考えを文字に書き起こすのは難しく、もどかしい。しかしそれよりも大きな要因は、将来の夢への思いだ。

私には、小学5年生からずっと抱いてきた夢がある。ジャーナリストに、記者になりたい。

今でこそ堂々と掲げている目標だが、大学に入学してからしばらくは、そんな自分の思いと現実との葛藤の中で苦しんでいた。

先のことだと思っていた“社会進出”や“就職”が急に目の前に迫ったような感覚に陥り、混乱した。それまでは一直線に夢を追ってきたことただそれ自体に、ある種の優越感を抱いていた私。今度は、その夢を実現“させなければならない”という強迫観念のようなものが襲いかかってきた。

追い打ちをかけるように、新聞業界の行く先に警鐘を鳴らす声が届く。世界はインターネット環境の整備やパソコンの普及と共に急激な情報化社会を迎え、今や簡単に世界中のありとあらゆる話題が、リアルタイムに手に入る時代がやってきた。人々はYahooやGoogleに流れるニュースやtwitterといったSNSサービスを通じ、活発に情報をやり取りしている。それと並行するように“活字離れ”“新聞離れ”や“若者の政治・社会への無関心=アパシー”などという言葉が蔓延し、マスコミ業界は揃っ

て不振にさらされている。

こうした現状を講義や著作物、講演会などで聞くにつれ、私の中でぶれることは無いと思っていた夢が、急に不安定なものになっていった。自立した生活を送ることを考えた時、果たして新聞業界に“将来性”を求めることはできるのか…。

大学院に進んでみようか。とりあえず、何か資格をとってみようか。いや、それよりは教職員免許を持っていた方がいいのではないか。いくら考えても、しっくりこない。

葛藤の中、ようやく書き出したキャリアデザインシートに書き出されるのは、やっぱり「記者になりたい」という思いばかり。「新聞社に就職する」「読解力・文章力・コミュニケーション能力を向上させる」「好奇心を大切にすると同時に、情報リテラシーを身につける。」etc…。

雁字搦めになっていた時、東日本大震災が起こった。目を覆いたくなる被害状況と共に、ある映像が目飛び込んできた。避難場所で、新聞をなめるように読む人の姿。ラジオに耳を傾ける人の姿。心の寄り道を求めるように、情報を求める人々が、そこには映っていた。

これだ、と思った。人に伝えるということ。記録を残すということ。私が目指そうとしていたものは、こんなにも大きな存在なのだ。

それは、新学年はじめの面談に向けた準備で、文字にすればするほど、確固たるものとなって私の中に降りてきた。

3年生を目前にし、今でも時折不安に襲われることがある。そんな時はキャリアデザインファイルを引っ張りだして、開いてみる。そこには、その時確かに感じていた強い思いが残っていて、そっと私の背中を押してくれる。

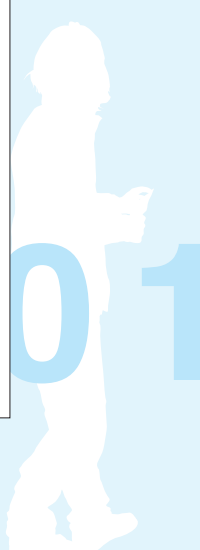
自分を見つめる機会を与えてくれる。迷った時、背中を押してくれる。それが、私にとってのキャリアデザインファイルだ。

教員からのメッセージ

エッセイ風で、読んでいて臨場感を感じさせる作品を示してくださって、どうもありがとう。所属なさっている課程の面談型チュートリアルのなかに、このファイルの使用が組み込まれているなかで、飾らない率直な活用法を書いてくださっていますね。

ご自身の大学卒業後に希望する活動の場で求められることとは何か、東日本大震災という未曾有の出来事のなかで自分が感じたこと、思ったことが、記録に残すことの大切さを認識させ、それがキャリアデザインファイルへの記入にもつながっていることが綴られています。

この作品で綴られていることから伝わるメッセージは、あなたの所属している課程や、志望する職業が同じ学生に止まらず、すべての学生に対してこのファイルに記入することの意義とは何かを気付かせてくれるように思います。



キャリアデザインファイルコンテスト2011受賞作品

「キャリアデザインファイルの活用のための提言」 —キャリアデザインファイルのweb化に伴う新たな展開—

キャリアデザインファイル？はてさて、そのようなものはあったのだろうか？と知っている方も少なからず居ることであろう。そういう私も入学以来、それを開いていない。この度、キャリアデザインファイルに関する投稿の募集があることを知り、改めてその存在を思い出した次第である。しかし、何故このキャリアデザインファイルを使ってこなかったのだろうか。それを考えつつ、ここにそれを活用するための私なりの2つの提言をしてみようと思う。

まず、第一にキャリアデザインファイルの位置づけと認識である。私は『キャリアデザイン』と『キャリアのためのスキル』を区別するべきであると思う。よってここに、『キャリアデザイン』は『キャリアのためのスキル』と区別して、このファイルを活用することを推奨する。『キャリアのためのスキル』とは、ここでは「エントリーシートや履歴書を書くためのスキル」や「面接のためのスキル」とでも考えてもらいたい。様々な異論はあると思う。確かにそのようなスキルも必要であろう。実際に就職活動などにおいて、そのスキルを必要とする場面は数多く出てくるはずである。しかしここでは、そのようなスキルはひとまず置いて、『キャリアデザイン』はそれとは別に自分のキャリアをどのように設計（デザイン）していくのかを考えるためのツールであるべきだと考えていただきたい。事実、『キャリアのためのスキル』を使う前に、自分がどのようになりたいのかの青写真すら描けない人も少なからずいることと思う。正直なところ、就職活動が始まらぬうちに『キャリアのためのスキル』を考えていこうというのには多少の無理があると思う。

キャリアデザインはその前段階として、これから自分がどうしていきたいのかを客観的に考えるためのツールであると認識しただければ少しは気も楽になるであろうし、身近なものになっていくのではないかと思う。我々学生はその程度の気軽なものとして、より身近なものとして、キャリアデザインファイルの認識を改めれば利用する機会も増えるものと信じている。気の持ちようではないのかと指摘されればそのとおりなのだが、あまり重いものではないのだと思えばその少しはキャリアデザインファイルを開く機会も増えるであろう。

そのためには、現行のキャリアデザインファイルの自由記述の仕様を大幅に変えてみるのも良いであろう。例えば、択一式の項目を増やし、我々学生が気軽にチェックできるように様式に変えてみるのは1つの方法である。今後web化も検討されているようだが、択一式にすれば、ちょっとクリックするだけの作業である。これなら面倒くさがりの私でも利用しそうだ。

正直に言おう、私は極度に面倒くさがりだ。学生のみならずであれば、少なからず共感していただけると信じている。課題やレポート、バイトにサークルなど、『キャリアデザイン』など考える余裕など就職活動が始まるまで考えないのではないのだろうか。しかし、日々の考えや時期毎の自己評価は、おそらく『キャリアデザイン』には有用であろう。したがって、自らの記録を累積していくことは極めて重要な事柄となる。web化に伴ってその仕様を『気軽に利用できるもの』に変更されることに大きく期待している。

さて、第2にweb化に伴う提言をしようと思う。先ほど述べたように、我々学生は極めて面倒くさがりである。したがってweb化に際しては次ぎの2点を提言したい。

まず、ログインが簡単であることだ。携帯でもPCでもよいがログインの煩雑さはそれだけで利用率の低下を招くだろう。気軽に利用できるためには、何もその内容の改善だ

けではなく、単純に携帯電話などで簡単にアクセスすることも必要な条件となる。特に、ログインの複雑さは大きな要因だ。簡単にログインできるようにできれば、アクセスすることがとても大きな負担となり、おそらく日々の定期的なアクセスは望めないであろう。

繰り返しになるが、我々は面倒くさがりなのだ。

さらに、できれば週に一回はwebサイトにアクセスができるようにしたい。そのためには、例えば、毎週（毎日でもいいが）ニュースのようなものをアップロードしてみたいか？まずはwebサイトにアクセスするインセンティブを働かせなければ意味がない。今日のニュースなどを掲載していただければ、それをチェックするためにログインするだろう。そこで、気になるニュースを見つけたでしょう。そこにチェック機能を付加してみるのも面白い。自分が気になった記事の記録がweb上に累積してくると、自分が何に興味関心を抱いているのか俯瞰的に観察することも可能になるだろう。

その上で、図書館との連携をしていただいで、自分の視聴履歴や貸出履歴が残るようにしてもらいたい。可能なのであれば、予測機能というのであろうか、「あなたにお勧めの情報」や「あなたにお勧めの本」などを自動で紹介できるようなシステムがあるとうれしい。そうすることで、キャリアデザインファイル（web版）には、自分の興味や過去のアクティビティが累積していくことになる。暇なときにその履歴を見返す。すると自分の描くべきキャリアが漠然とだが見えてくるのではないだろうか？その上で、アンケートをとるなり、キャリアデザインをするなりしてみると意外と将来のことが考えやすくなると信じている。

いやはや、長くなってしまったが、私が提案したいことは端的に2つである。

まずは『キャリアデザイン』を『キャリアのためのスキル』と切り離して、より簡単に楽しく利用できるようにすること。それから、自由記述をなるべく避け、自己の省察が容易にできるようなシステムを構築することである。

おそらくは、web化に際して、より楽しいアクティビティが付随してくれば、私自身もデザインファイルを多く利用することになるだろう。より多く利用することは、結果として数年先の自分をデザインするうえで有益な情報を蓄積することとなると信じている。

以上、駄文にて失礼をしたが、私なりの提案をしてみた。さて、みなさんはキャリアやそのデザインについてどのようにお考えになるであろうか？私はキャリアデザインファイルの利用率が多くなることは自らの有益となると思っているが、如何せん面倒くさがりであるもので、上記のような提案をしてしまった。個人的意見であるが、今後のweb化には多めに期待をしている。みなさんも、より楽しく、より気軽に、キャリアデザインしてみたいかだろうか？

教員からのメッセージ

学生が「キャリアデザインファイル」を活用することの意味とは何か。あなたの作品には、学生の目線に基づくからこそ言えるであろう、ファイルの有用性を高め、学生自身が活用したいと思わせるような、「なるほど」と思わせるアイディアが盛り込まれているように思います。作品内で書いてくださっているように、今後このファイルはweb化していきますので、使い勝手のよさや、記入することに対する楽しさといった観点にも配慮した形で、提言の内容を参考にしたいと思います。

キャリア教育科目

「逸脱行動の社会学」

キャリアTA 遠藤光泰

「なぜ自殺は罪にならないのか?」「豊かな家庭と貧しい家庭の子どもは、どちらが非行に走る?」「人の命と動物の命の重さが平等でないなら、なぜそうなるのか?」「大学へ行くことのメリットは?」「大家さんとうまくやっていくにはどうしたらいいか?」

これらは「逸脱行動の社会学」の授業で取り上げられた、受講生からの質問集の一部です。

この授業では第1回目の授業時に学生に対して青年文化や社会における疑問・質問を挙げる事が求められ、以降の授業ではその学生の質問に対して講師が答えていくという形式で進められていきます。

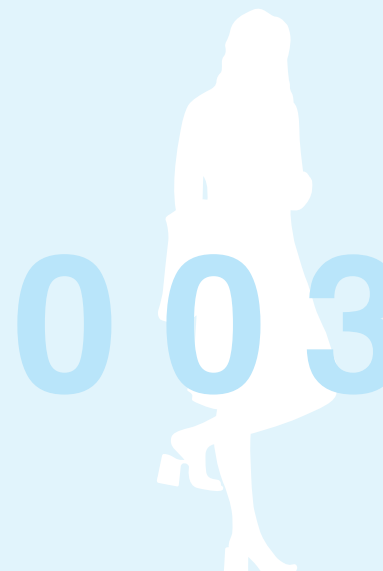
もちろん学生からの質問はどれも決まったひとつの答えで納得できるタイプのものではありません（だからこそ学生が質問として挙げていると言えますが）。このような「答えのない質問」に対して講師の渡部真氏は、この授業のテキストとなっている『現代青少年の社会学』（世界思想社、2006年）で次のようなスタンスを述べています。

「①取り上げなければならないと自分が考えた問題は必ず取り上げること、②できるだけ、その問題について多くの考え方を紹介すること、③そのなかで、私自身の考えとその根拠をはっきりと記述すること」(p,1)

これはテキストの進め方に対して書かれたものですが、授業の進め方に対して同じことが言えると思います。授業中では、学生の質問に関連して、テキスト以外の書籍または文学作品や映画、時事問題や経験談を交えた講師の意見が提示されます。それを受けて学生側には、授業中の小レポートおよび期末レポートという形でさらなる意見の提示が求められます。この授業の狙いは、授業全体を通した学生と講師のこうした「問答」にあるということができるとい

う。大学は、高校までと異なり「先生から何かを学ぶ場」ではなく「自ら何かを学ぶ場」ということが言われています。その意味では極めて大学的な授業ということが言え、そこには講師の「学生の直接の要求に応える」という意図が反映されています。

「学校では答えのある問題に取り組むが、社会に出たら答えのない問題ばかりである」という言葉を耳にしたことがあります。学校教育と社会のちょうど中間にある大学という場で、このような「答えのない問題」に取り組むことは学生が自らの価値観をとらえ直す機会になっていると考えます。さらに「キャリア」とはさまざまな選択肢の中からある道を選択することであるならば、そこには主体となる個人の価値観が大きな重要性を持つこととなります。「学生が自らの問いを深化させる中で、価値観を見つめ直す」そういった意味では、全学部・全学年に開講されているこの授業は、その根幹的な部分でキャリア教育の一端を担っていると言えるのではないのでしょうか。



キャリア教育科目

「倫理学」

キャリアTA 福地真弓

「倫理」という言葉を聞くとどのようなことを想像するでしょうか。何か、世間一般、社会一般において守らなければならないこと、規範、ルール、校則、「自分がされて嫌なことは、他の人にもしてはいけません」というような台詞。いろいろ思い出されることはあるはずです。そしてそれに反感・違和感を覚えたことも。

教養科目の授業、倫理学では、それらを改めて、一人一人にたたき込むことが目的ではありません。また、それらについて一つ一つを詳しく取り上げて考え、答えを出すことが主眼となっているわけでもありません。

この授業では、所属する学部学科を問わず、これから先、大学で学ぶとはどういうことかを念頭に、倫理学の問題を素材として、今までに身に着けてしまっている「常識」を考えなおし、もっと別の考え方が無限にあることに気づき、そこからもう一度自由に、新しい答え、或いは新しい方法を、創造的に考え直し、探求することが目指されます。

今期の倫理学の授業では、『身体とアイデンティティ ジェンダー／セックスの二元論を越えて』（金井淑子編著 明石書店）をテキストに、なれ親しんだこの自らの身体に、もう少し正確に言うと、この自らの身体をなれ親しんだものとみなし、何の違和感も感じずに暮らしている「私」自身に、様々な疑問をぶつけてみるどころから出発しました。

例えば、「顔」。なぜ、私は私の「顔」を知っているのか。これは、よくよく考えればおかしな話です。「私ですよ、私を覚えていませんか？」と言いながら、人差し指で自分の顔を指さす光景は、珍しくもなんともないと思いますが、その私の大切な顔を私は、いつそれが私のものだとわかるようになったのか。生まれてから一度も「私」は自分の顔を自分の目で見たことはな

いのに、何故、最初に鏡を見たときに、それが「自分の顔」だと分かったのか。

「顔」だけではありません。私は男性なのか女性なのか。非常にデリケートな問題ですが、でも、いつ私はそのどちらかであることに気づかされたのでしょうか。それはそんなに自然に受け入れることができたことだったのでしょうか。性についての問題もまた実は「私」にとっては、とても大きな問題であるはずなのに、個人的な問題として閉じられてしまいがちなゆえに、その論じられ方には偏りがあるどころか、未だに語ること、考えることすらしてはならないと思われている社会の「常識」が、私たちを縛っています。

このような、既に私自身の一部となってしまった、なれ親しんだ知識・考え・思考をいったん横に置き、私の中の既存の価値に、思考方法に、揺さぶりをかけ、そこから改めて自由に考えてみる。どのような学部学科であれ、それが、大学で学ぶ、自由で、創造的、発見的な学問の、すべての基礎ということができます。

とはいえそれはなかなか難しいことですので、まずは、自分自身の、身近な、なれ親しむことのできなかつたもの、不愉快な感じ、反感・違和感を今度は武器にして、その手近なところから反旗を翻してみるのがいいように思います。例えば、倫理学の授業で取り上げている「身体」についてなどから、デリケートでプライベートなあの感情から。この揺さぶりの思考は、大学から先のステージでもきっと大事なものであるはずです。

キャリア教育科目

「教育社会学」

キャリアTA 山家真実子

教育社会学がキャリア教育においてどのような効用があるのかという議論をする前に、「教育社会学」という言葉を聞いて、具体的なイメージが浮かぶ人はどのくらいいるのでしょうか。教育学部で学ぶ学生でさえ、「何それ？」というのが本当のところなのではないでしょうか。教育社会学とは、教育事象を社会的に分析する学問である。これが単刀直入な答えです。しかし、この答えでもまだ難しいかもしれません。「社会的って何？」という疑問が湧くのも当然です。この「社会的」の部分を私なりの理解で噛み砕いて言うなら、「世の中の事象について当たり前と思わず、疑ってみる」となります。教育社会学が最も嫌う論調は「べき論」です。「学校はこうあるべき」、「子どもはこうあるべき」、「子どもはこうあるべき」、「教師は…」、「親は…」、……と、このように永遠無限の「べき」ループに陥っていきます。夢や理想を語るなということではありません。ひとつの模範型をつくって、それにすべての人を統合していこうという姿勢に違和感が生じるのです。みんなが「右向け右」と言われて素直に従うとき、「なんかおかしいんじゃない？」と一石を投じるのが社会学の醍醐味なのではないでしょうか。

社会学が対象とする社会というものは、目には見えないものです。しかし、確実に存在しています。森の中にいるかぎり自分がどこにいるのかはわかりません。しかし、高いところから森を見渡せば全体像が掴めます。逆に、大枠は掴めても、細部を知らなければ物事を冷静に分析することは難しいのです。教育社会学は、ミクロな視点とマクロな視点を包括し、客観的、相対的に関係性や事象に向き合い、理解していくというアプローチを取ります。ある有名な社会学者は社会学を「関係としての人間の学」と言いました。私たちは、生きている限り否が応

でも他者とのかかわりの中で生きています。また、自分自身を知るということは他者を知るということの裏返しでもあるのです

ここまで、読んできた方は大体お分かりになったと思いますが、自分自身のキャリアを考える上で、教育社会的視点は大きい有用だということが出来るでしょう。それは、キャリア＝職業という短絡的結びつきの発想ではなく、ライフコースについて長期的展望に立って考えるときに初めて見出せるものです。他者とともに生きていくその過程こそが、キャリアを築いていくことでもあるのですから。



キャリア教育科目

「人間と地球社会」

キャリアTA 角田 信

「あなたは差別主義者ですか？」と聞かれて、「はいそうです」と答える人は殆どいないでしょう。そんな質問自体が心外だと思われるかもしれません。そして実際、この質問に不快感を覚える殆どの人は、差別をするべきでないと思っておりしないように心がけてもいるのでしょう。ですが、だからといってそのような人々が本当に差別をしていないかというのは別の問題です。むしろ多くの差別を生み出しているのは、そのような自分を差別的だと思っていない人々が無批判に受け入れている対立構造にあるのかもしれない。

「男／女」「子供／大人」「自然／人工」「正常／異常」「異性愛／同性愛」「西洋／東洋」など、世の中には多種多様な対立構造があり、差別とはこれらから生み出されるものであるともいえます。先ほどの質問を否定的に考える人でも、これらの対立構造そのものには疑問を持ったことがない人が多いのではないのでしょうか？しかし、これらは本当にそれほどわかりやすく対立しているのでしょうか？というより、本当に分けて考えることが可能なのでしょうか？これがこの講義のテーマです。このテーマにそって毎回違う教員がそれぞれの専門分野から講義を行います。（これは結構贅沢な事なんです）

当然ですが、専門分野が違うので教員によって切り口は大きく異なり、教員ごとに取上げるものも、西洋史であったり、精神病理学であったり、ジェンダー（社会的性差）であったり、マスコミであったり、文学であったり、それこそ多種多様であり、様々な視点からこのテーマを掘りさげます。講義毎に切り口が変わるので目が回ってしまうかもしれませんが、その過程で自分の興味を持てる分野を発見できるかもしれないのも、この講義の楽しみといえるかもしれません。

さて、最後になりましたが、「この講義がキャリアデザインにどう役立つか？」と問われると、返答が難しい事は認めるしかありません。少なくともこの講義を取ることで即就職が有利になるとか、非常に評価の高い資格になるわけではありません。しかし、では逆にキャリアデザインであるとか、キャリア教育であるとかそもそも何なのでしょう？この点に関して、はっきり自分の意見を答えられる学生は意外に少ないようです。この講義が問題にしているのは、まさにそのような漠然と受け入れられている枠組みについて考えることであり、この講義を受けることで、自分にとってのキャリアデザインが何かという答えを見つけ出す手がかりになるかもしれません。



キャリア教育科目

「教育実地研究（国語）」

キャリアTA 黒澤朝子

※「教育実地研究」は23年度から
「教職入門」に科目名が変更になりました。

「では、今日から『大造じいさんとガン』を読み始めます。みんな教科書を出して。」ガヤガヤと授業の準備を始める子どもたち。さて、あなたはこの後にどんな導入（授業を始める前に子どもの意欲を引き出す）をするだろうか。どんな発問（子どもたちに問いかけること）をするだろうか。どんな板書（黒板に書くこと）をするだろうか。

教師になるにはもちろん、教育実習をするには、これらを具体的に思い浮かべられる必要があります。でも2年生の段階で、それができる方は少ないでしょう。そこで、こうした教師になるための土台作りを、「教育実地研究」を通してしてもらえたら良いと思います。

例えば、平成21年度の講義では「板書の仕方」「ノート指導」「説明的文章の指導方法」「文学的文章の指導方法」「学習指導案の書き方」などについて考えました。すると、今まで、受動的に受けてきた小学校、中学校の授業の一つ一つに教師の意図があったことに気づきます。そういった、教師の仕事に対する意見を出し合う中で、学生の皆さんが考えを深めていく様子をうかがうことができました。

同様に、国語の授業についても、考えを深めていきます。例えば、教科書の文章を段落分けする際、教師はどのように指導したら良いでしょうか。多くの方は「この段落分けが正しい」と、一方的に指示された経験があると思います。しかし「教育実地研究」では、観点によって様々な段落分けができる、ということを学生の皆さんが身をもって感じていました。「段落分けは、根拠が示されれば、どの分け方も正しい。教師が段落分けを示すのは新たな視点を子どもに与えるため。」との、まとめを聞いて、私を含む多くの学生の方が、段落分けに対する認識を新たにしたいと思います。

いざ授業をするとなると、自分の受けた授業

を必死に思い出して、昔の授業の再現をしがちです。ですが、自分の世代が教わったことをそのまま次の世代に教えるだけで良いのでしょうか。日々変化する社会に対応する力を子どもが身につけるためには、次の世代に対応した新たな授業が必要になると思います。国語の授業に対する考えを深め、自分のイメージを二転三転と変化させることで、新たな授業に近づくことができるでしょう。授業に対する認識を深めることも「授業実地研究」が担う重要な役割だと思います。

そして、授業に対する認識は理論から、実践へと広がります。理論を通して培ってきた視点を以て、横浜附属小学校の授業を見ると、教師は何を意図しているのか、予想しない子どもの発言にどう対処しているか、板書の速さはどのくらいか、など新たな疑問が浮かぶかもしれません。そうした実際の指導の難しさを、大学に戻って改めて考え直すことで、より実用的な知識となってみなさんの中に定着することでしょう。

以上まで、教師になるための土台作りの話をしてきましたが、この「一つのことについて考えを深める」姿勢は、教師に限らず、多くの職業で求められることだと、私は思っています。それは、一つのことを追究できる人は、他のことにも追究する姿勢を生かすことができるからです。教師にならない方でも、きっと自分のキャリアに役立つ時間となるでしょう。

今まで様々な所で授業見学をさせていただきましたが、面白い授業をする先生は「教師の仕事とは何か」を語れる先生だと、思うようになりました。国語科教師を目指すみなさんも、ぜひ「教育実地研究」を通して「教師の仕事とは何か」について悩み、考えを深めてみてください。その考えた時間は、皆さんのキャリアを支える大きな糧となって、将来に還ってくるでしょう。

キャリア教育科目

「教育実地研究」(音楽領域)

キャリアTA 橋本千春

※「教育実地研究」は23年度から「教職入門」に科目名が変更になりました。

教育人間科学部学校教育課程において、2年生に必修として課せられているのが、この教育実地研究という科目です。私も学部生だった頃にこの授業を受講していました。思えば、今私が教員を目指しつつ、しかもっと深く広い知識を得ようと大学院で学び続けているのは、この授業で学んだことや経験したことが、その原動力の一つになっているのかもしれませんが。キャリアTAとして再びこの授業に関わったことで、新しく見えてきた授業の意味や位置づけについて、キャリア教育という視点から振り返ってみたいと思います。

大学2年生…教育実習が近づいてくると、自分は本当に教師になりたいのか、と自分に問い直してみたり、本当は何が向いているのだろうか、と自分を見つめ直したりする事があると思います。私自身もそうでした。教職を強く志望している学生にとっても、実際に児童と触れ合う機会はそれまでに少なく、教師というものに漠然としたイメージがあるに過ぎない人が多いはず。こうした時期であるからこそ、実感を伴うフィールドワークを中心とした活動は、自分のキャリア・デザインを意識し始めるきっかけになるのではないのでしょうか。音楽専門領域の教育実地研究では、こうした様々な思いを持った2年生の学生達が、まず対話や授業観察を通して子ども理解の視点を養うことを目指します。さらに、学生が主体となって音楽会を企画し、小学生と交流を図るという活動もこの授業の中心になっています。この交流音楽会では、「児童が参加して音楽表現をする場」という条件が与えられるため、どうしたら子ども達が夢中になるか、興味や表現意欲はどのような場面で喚起されるのか、などと学生は試行錯誤し、子どもを巻き込むストーリーを考え出します。この音楽会の成功に向けた活動は、キャリア教育

の基盤ともなる大切な要素が含まれていると私は考えます。その一つが他者との関わり合い、関係作りです。短い時間の中で子どもの心をつかむには、反応を予想して表現を工夫し、時には子どもの気持ちになることも必要です。もちろん学生同士のコミュニケーションも欠かせません。他者の考えを受け入れ、討議を重ね、自分の意見を明確に伝える術も必要になってきます。今回の音楽会では、学生のキャラクターや得意分野が存分に活かされ、実に生き生きとした姿を見ることができました。それができたのは、学生同士がお互いを多面的に理解し、良さを認め合っていたからに他なりません。子ども達、学生ともに満面の笑みで幕が閉じたのは、最後まで妥協せず、真剣に取り組み続けた結果でした。

「教えられる」立場から「教える」立場へ。その移行期において、「職業観」とはっきりしたものまで掴めなくても、教育実地研究はキャリア・デザインを意識し形成していくきっかけの場として重要な役割を果たしているのではないのでしょうか。それは教職志望者に限らず、自分を見つめるすべての学生にとって、大変意味があることであると私は考えます。



キャリア教育科目

「教育実地研究」(教育基礎)

キャリアTA 片桐脩平

※「教育実地研究」は23年度から「教職入門」に科目名が変更になりました。

教育実地研究は学校教育課程において必修の授業です。

この教育実地研究という授業は、学生にとっては教育実習に臨むための準備段階としての役割を担っています。教育実習が自分のキャリアデザイン上で重要なイベントであるのは言うまでもありませんが、その準備段階である教育実地研究も円滑に教育実習に入るために大切となってきます。

実地研究は大きく2つの内容となっています。ひとつは、教師の役割や学校の仕組みを理屈として学ぶもの。もうひとつは、実際に学校に行って現場の教師の姿を見て学ぶもの、です。「実地」研究である以上、後者の方がよりメインであるのは言うまでもありません。

教育実習では形式としては実習に入ったその日からもう「先生」としての振る舞いを要求されます。その前に、「生徒」でも「先生」でもない立場から学校を体験するのは、まさに実習の前段階として価値があるのではないのでしょうか。この、生徒でも先生でもない、中間の立場は実地研究以外では体験しづらいものです。ここで、この中間の立場でしか学べないこと、中間の立場だから学びやすいことを挙げてみたいと思います。

①授業見学の方法

実地研究では、同じ授業を受講している仲間、大学で授業を担当している講師など多くの人と同じ授業を見ます。その中で、授業を見終わった後の討論や他人の感想を聞くことは、相手の意見と自分の考えを比較する機会を得、自分の授業の見方を考え直すことにもつながります。

②授業が行われる環境

また、学校、という場に行く機会は、残念ながら大学の間でそう何度もあることではあ

りません。実地研究という「見る」ことがメインの活動の一つである場では、学校という環境を見るいい機会でもあります。机の配置はどうなっているのか、掲示物はどのようなものが掲示してあるか、学校の教室はどのような並びになっているのか、など視点は多く考えられるでしょう。

③実地研究では1人を集中してみることができる

私としては、最も有益なポイントの一つであると考えます。実習では教師1人に対して、子ども30人ほどが基本になります。そうなれば1人につきっきりで教えることは難しくなります。しかし、実地研究では1人につききり、その子どもの理解の過程を見ることができます。教師のどのような問いかけやアドバイスを、子ども1人の理解にどう影響を与えるのかを見ることは教師になるにあたってとても役立つことではないでしょうか。

④自分の教育体験と現在の教育との違い

また、自分の受けてきた教育との違いを見つけることも有益なこととなるでしょう。実習になれば指導する立場になるので、現在の学校現場が自分を育ててくれた学校現場とどう違うのかを認識していないと実習になってから戸惑うことになってしまいます。

以上、4点挙げてみました。このように実習に入る前に少しでも学校と言うものについて自分の枠組みを広げることができるのはこの授業の大切なポイントであると思われます。教育実習の前段階として「学校を見る」この授業は、実習の過ごし方を考える上で、ひいては自分の生き方を考える上で、有意義な時間になるのではないのでしょうか。

キャリア教育科目

「教育実地研究」(心理発達)

キャリアTA 岡崎ちひろ

※「教育実地研究」は23年度から
「教職入門」に科目名が変更になりました。

「教育実地研究」は学部2年次に開講される授業であり、専攻ごとに担当教員、内容、開講時期は異なる。

この授業では、担当大学教員による講義に加え、大学附属の小学校・中学校・特別支援学校に、観察者として参加する。教育実習とは異なり、学生は授業をすることはなく、大学教員から課された課題を中心に、自らの視点をもって授業を観察・分析する。この授業は言うならば、教育現場に関する知識を主に講義から学ぶ1年次の「基礎実験」と、実際に教育現場に教員として参加する3年次での「教育実習」のつなぎとなる授業である。

私がティーチング・アシスタントを務めた教育実地研究では、小学校・中学校・特別支援学校を、それぞれ1回ずつ訪問した。学校訪問前に担当大学教員から課題が与えられ、学生は観察後、課題への意見をまとめた。その意見は個人の意見としてとどめられるのではなく、グループ討論や発表を通して共有され、さらに担当大学教員によるフィードバックが行われた。

課題は「授業、活動を観察し、学習内容への動機がいかにか喚起されているか、具体的な授業のくふうの観点からまとめる」や「学習事項の生活への応用がいかにか目指されているか見て取る」等、学生が教員となる上で有用な知見となるように設定されていた。観察後の講義では、具体的な場面を挙げながら「教員が児童の発表をまとめ、全体に伝え、発表した児童を褒めることで、多くの児童が積極的に発表していた。自分も教員になったら、取り入れなければと感じた。」等、活発な意見交換がなされた。

教育現場への参加は、受け入れ側の学校に時間や場所の設定等、手間をかけてしまうため、容易に行うことはできない。しかし、教育実習で突然教育現場に参加することは学生にとって

大きな負荷となる。事前に授業の様子や、教員と生徒の関わり方を観察できることができれば、それは学生にとって大きなメリットとなる。この教育実地研究は、大学教員や受け入れ側の教員の支援を受けながら教育現場を観察できる数少ない機会であり、教育実習を来年度に控える学生にとって、有意義な授業である。

また、教育実地研究では、教員としてではなく観察者として客観的に児童・生徒を観ることが出来る。このように純粋な観察者として学校に参加する機会は、教育者として学校に関わる上で、そうそうない。例えば、教育実習では、授業や学活、休憩時間の全てにおいて教員として児童・生徒と関わらなければならない。また、教員として勤務し始めれば、常に教員の立場に立たねばならず、授業研究会等の場面でも、他教員と議論を交わす立場から授業を観察しなければならない。学生として教育現場に参加した彼らは、「もっと児童の意見を聞いてあげればいいのに」「どうしてこの指導法をとるんだろう」といった純粋な感想や疑問を持った。しかし、近い将来、実際に教壇に立ってみると自分が思っていたようには振舞えないことに彼らは気づくだろう。このギャップは彼らが教員として成長していく上で重要な手掛かりとなりうる。

教育実地研究は、教員を目指す学生にとって、教育実習への準備段階として有意義だけでなく、教員として成長していく上で有用な知見を得られる貴重な授業である。

キャリア教育科目

「消費生活論」

キャリアTA 金文淑

「消費生活論」の講義は月曜日3限に開講されました。

講義では、「消費者問題の現状」、「消費者問題の変容」、「企業活動と消費者問題」、「消費者取引の基礎—契約の一般原則、不公正な契約」、「クレジット社会と消費者」、「今日の多重債務者問題 ～借金チャラになる?!～」、「情報化社会と消費者問題」、「被害救済とADR（裁判外紛争処理）、団体訴訟」、「消費者政策と市民社会形成」など、幅広い問題を扱いました。

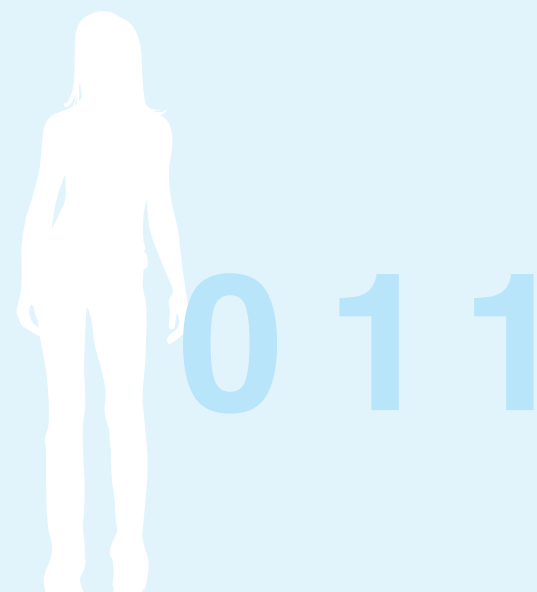
講義は、テキスト、レジュメ、新聞記事、参考プリントなどを中心に進められました。毎回、講義の終盤には、受講生が講義を受講しての意見や感想などをまとめる時間が設けられていました。また、「消費者庁設置に関する新聞各紙の記事を読み、論旨をまとめ、自身の批判的意見や主張を明解に論じる」といった内容のレポートも課されました。

毎週行われる講義の中で、私自身も強く印象に残っている講義があります。それは、現役で活躍されている弁護士さんや、TOTOのCS担当者、消費者関連専門会議ACAPの事務局長など、ゲストティーチャーとして招かれた方々が行ってくださった講義です。

受講生にとっても非常に貴重な時間になったことと思います。また、第5講目「消費者取引の基礎Ⅱ—不公正な契約—」という内容の講義は普段と異なり、「現代日本の社会でよく発生する消費者取引問題」について先生がいくつかの質問を問い掛け、受講生に答えとその理由を聞き、先生と受講生がディスカッションしながら授業を進めました。

本講義を通じて、受講生は未熟な消費者かもしれませんが、被害の予防などを講義で学び、そして、被害に遭っても落ち着いて解決する方法を身につけられた講義になったと思います。

受講生は消費者としての意識を一層高めたと同時に、今後契約などを行う際には、慎重な対応で臨むことができると思いました。本講義で学んだ内容は、社会人になってはもちろんのこと、生涯において活かしていけることでしょう。



キャリア教育科目

「学外活動・学外学習Ⅰ（社会全般のボランティア）」

キャリアTA 山下太一郎

近年は上向きと言われる新卒雇用は数年前まで氷河期を迎えていた。その時代を、メディアを通じて刷り込まれてきた現代の大学生にとって、就職や働くことに夢を抱くことが難しいという見解も頷ける。その彼らにとって学外活動とはどのような存在であるべきなのだろうか。

そもそも大学生が学内において講義、演習で学んだことを実習という形で表面化される機会は少ない。専門的な内容の講義であればあるほど、学びの深さゆえに現実離れしていつてしまう。実社会との関わり合いを見出すには、講義で得た知識と社会の交錯する瞬間を見るのが一番である。そこで、大学生に自分が今学んでいることが社会においてどのような役割を果たしているのか、また、どのように関わっているのかを実感してもらう必要がある。

また、入社後の新卒者にも変化が起きている。就職後、数年で会社を去る・変わる若者が増加している。この背景には、若者の意識変化の他に、学生と企業の関係もある。近年の第三次産業の発達により社会は急速に多様化してきている。しかし、働く場所を選ぶ段階になっても学生にとってその全体像はイメージし辛く、それゆえ自分の興味のある業種を見つけるとなるとさらに困難となる。そのため、学生の就職支援も徐々に発達してきてはいるが、その方法が明瞭とは言い難い。

そこで、現代の大学生にとって必要なことの一つに、職場を実際に見てみるということがある。一度実際に現場を見てみることにより、その仕事の業務にどのようなことがあるかを知ることができる。さらに、業務に自分の思っていたことだけでなく、その仕事の楽しさや面白み、また、辛いところなどをあらかじめ知ることができる。これは若者の早期転・退職への対策にもなり、それ以上に学生にとって有益なことと

して、自分の仕事観を確かめたり、磨いたりするきっかけとなる。この仕事観を磨くということは学生にとって非常に難しい。本やインターネットなどで職業の情報は得られることと、職場で実際に働いたり、働いている人と話したりすることには少なからず差があり、なにより現実味がある。これにより、自分のやりたいこと・興味も絞られ、また、自身の将来への展望も見出しやすくなる。

このように、学外活動の意味としては企業と学生との接点をもつということもあるが、一番大きなものとしては、学生自身がその活動を通して自分の職業観がどのようなものかを確認する場といえる。活動を通していく上で、自分には何が向いているか、さらには、将来自分は何をしたいのかということを考えていくことができる。就職活動への手がかりはもちろんのこと、社会とつながるきっかけとなっているのである。



キャリア教育科目

「学外活動・学外学習Ⅱ（教育ボランティア）」

キャリアTA 小池健志

今日、就職後の早期離転職が依然として高い水準で推移しており、学ぶこと・働くことへの意欲や態度、職業観・勤労観の形成をめぐる各方面から様々な課題が指摘されている。

このような背景には、少子化による人口の減少等によって、大学等上級学校の入学者受け入れ枠が実質的に大幅に拡大するなど、学生の進路選択をめぐる環境が大きく変化したことが考えられる。こうしたことが、職業観・勤労観の形成をはじめとする学生の自立及び学校から職業生活への移行にかかる様々な課題を、これまで以上に顕在化させているのではないかと考えられる。

また、企業における社員研修や人材育成等の在り方も変化している。こうした中で職業人としての資質の育成について、学校教育に課せられる部分が大きくなっている。このような時代を生きていく上で強く求められるのは、変化に流されることなく、自立した個人として自らの将来を主体的に切り拓いていく力であり、その基盤となる意欲や態度及びこれらを根本において支える職業観・勤労観である。子どもたちの進路選択、とりわけ学校から職業への移行が、量的にも質的にもこれまでにない困難に直面している今日、学校教育において、子どもたち一人一人が望ましい職業観・勤労観をしっかりと身に付けることができるようにする取組の充実・改善が強く求められている。

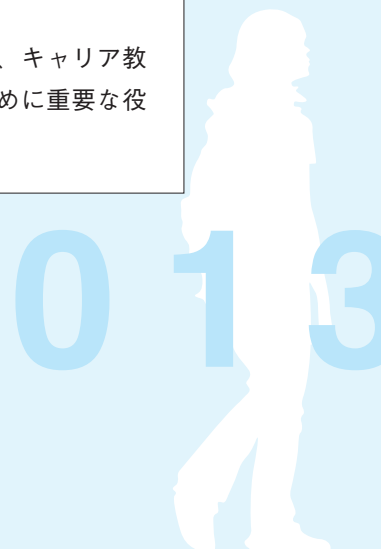
職業観・勤労観を養う一つの方法としてキャリア教育がある。キャリア教育とは、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」とある。キャリア教育での目標はいくつかあり、「大学におけるキャリア教育のあり方」では、学生が①社会や職業社会への「移行期」に

あたり、自らの将来・人生をおおまかにでもしっかりと設計できること（キャリア設計能力）②職業生活の中で自分が何を実現しようとするのか、職業に対してどういう意味づけをするのか（キャリア・職業観）③自分はどの道を歩むのか（キャリア・職業の選択）④そしてそのためには何をなすべきなのか（職業・専門能力）、などを明確にすること、ということが挙げられている。

一般企業を目指す学生は、インターンシップで、長期休暇に企業等で研修生として職業体験を行なえる。そこで、先ほど挙げた4つの目標を明確にすることは十分可能だと考えられる。教職を目指す学生にも、教育実習というものがあり、そこで職業体験を行なえるものの、実際に実習が始まると授業などに追われ、現場の教員の考えを聞き、学校の内情を知る時間はない。

教育ボランティアでは主に、教員の授業を補助することが仕事であり、実際に授業をするわけではないので、指導案も作成しない。そのため、空き時間も現場の教員の考えを聞き、学校の内情を知る時間もある。それゆえ、「社会や職業社会への「移行期」にあたり、自らの将来・人生をおおまかにでもしっかりと設計できること」、「職業の中で自分が何を実現しようとするのか、職業に対してどういう意味づけをするのか」、「自分はどの道を歩むのか」、「そのためには何をなすべきなのか」などを考えることができ、目標を明確にできると考える。

担当科目授業は、教職志望者の、キャリア教育の中の4つの目標を達成するために重要な役割を果たしていると考ええる。



キャリア教育科目

経営学部ビジネス・キャリア教育プログラム

経営学部教員 井上 徹

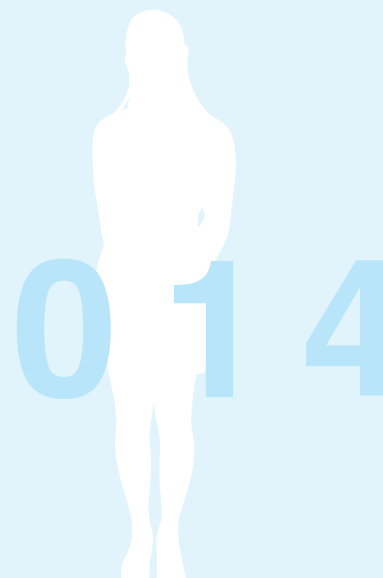
経営学部ではビジネス・キャリア教育プログラムを実施しています。ビジネス・キャリア教育プログラムは、「啓発・学習⇔実践」という自ら考えて行動する主体的な学びを通じて、皆さんのビジネス・キャリア形成を支援するプログラムです。プログラムの概要は以下のとおりです。

ビジネス・キャリア教育プログラムの4つの柱

- ① **「気づく」**：経営者・創業者など、実業界からの多様な講師による講義形式の授業科目
→ 現在、「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の2科目を開講しています。経営学部インターンシップの前提科目であり、受講者数は300～400名です。これまで講演して頂いた方々と、授業の感想は、<http://www.business.ynu.ac.jp/contents/intern/>で見ることができます。
- ② **「磨く」**：自己学習・相互啓発によって、企画力・プレゼンテーション能力を高める授業
→ 講師と少人数の学生による自己学習・相互啓発的な形式で、各人がビジネス・プランを考え、ブラッシュアップし、プロジェクト化する授業、「マイ・プロジェクト・ランチャー」を開講しています。
2009年には、受講者が提案・実践した「横浜の野菜を使った一日地産地消レストラン」が、多数のメディアで大きく取り上げられました。上記URLで、新聞記事を見ることができますので、参考にしてください。
- ③ **「動く」**：インターンシップ。毎年20～30名の学生が実践を通じて学んでいます。

- ④ **「創り出す」**：ビジネス・プラン・コンピテスト：学生の創造性と企画力、プレゼンテーション能力を養うことを目的として、ビジネス・プラン・コンテスト Y1を開催しています。平成21度は、学生による実行委員会が運営主体となり、同窓会である富丘会の協力を得て実施しました。エントリーは27チームで、常盤祭期間中の10月31日に8ームによる決勝を行いました。このY1決勝で提案された企画の一つが商品化され、近く店頭に並ぶ予定です。平成22年度も常盤祭で決勝大会を行います。

また、平成21年度からは、実践的な科目の履修を中心とした副専攻プログラム「ビジネス・プラクティス」を設置しました。また、国大生なら誰でも参加でき、様々な情報を交換・発信できるキャリア教育支援SNS、Y-Career (<http://www.ynu-career.com/>) を開設しています。



キャリア教育科目

理工学部のキャリア教育科目について

理工学部教員 大野かおる

理工学部は4つの学科に分かれており、その中に13の教育プログラムがあります。それぞれの教育プログラムでは、学生一人一人が独自の将来に対するビジョンを抱きながら興味をもって進んで学習に取り組めるように、学生の志向と社会のニーズにあわせて幅広い教育を行うことを目的として、複数のキャリア教育科目が用意されています。

理工学部で学ぶことが社会や産業においてどのような形で必要とされているのか、それを学ぶことによって将来社会にどのような形で貢献できるのか、学生が将来大きな技術革新に貢献し社会で活躍するイメージを持ちながら、意欲的、自律的に自己を啓発するための科目です。企業や社会との関わりについて学習する科目、技術者としての倫理観を養う科目、安全や環境に関する科目、自らのアイデアで調査研究を行う科目、プレゼンテーション能力を養う科目、学外学習やインターンシップなど、さまざまな科目があります。具体的には、次のキャリア教育科目が理工学部から提供されていますので、有意義な履修計画をたててください。

社会や産業からの必要性、将来社会への貢献についての意識を高めるための科目：

(教養教育科目)【機械工学と社会のかかわり合い】、【安全・環境と社会】、【材料学入門】
(専門教育科目)【物理学と先端技術】、【技術者倫理ワークショップA,B】

外部の講師などによる学外の知見に接して広い視点を養うための科目：

(教養教育科目)【システム・エンジニアリング】、【情報通信技術が培う近未来医療】
(専門教育科目)【物理キャリアアップ】

専門的内容であるが、自らのキャリアデザインにつながる視点や洞察を深めるための科目：

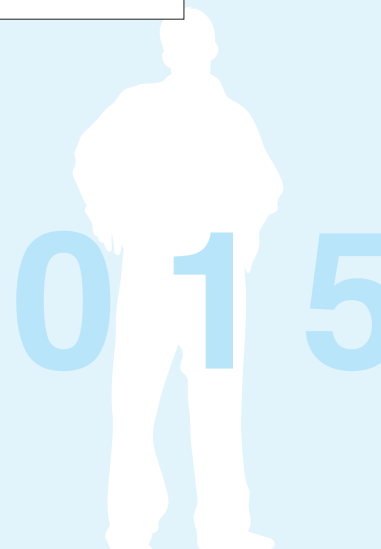
(教養教育科目)【地域連携と都市再生A, B】、【土木工学と社会】、【物質工学と社会】、【電子情報システム概論】、【情報工学概論】、【海洋工学と社会】、【都市と建築】、【土木事業と社会システム】
(専門教育科目)

【総合応用工学概論】、【先端電子情報工学】、【現代社会と物理工学】、【インベスティゲーション実習】、【プレゼンテーション実習】、【建築史演習】、【生態学社会実習】

学外での実践的な実習や就業体験を通して、仕事や自分をみつめ直すための科目：

(専門教育科目)【機械工学インターンシップ】、【材料工学インターンシップ】、【物理学工学インターンシップ】、【学外実習】

この他、いくつかの技能資格の取得や技能試験の受験資格、高等学校や中学校の教員になるための教員免許状取得のためのカリキュラムも用意されています。教員免許状については理工学部履修案内を見てください。また、理工学部では各学科の就職担当教員が皆さんの就職活動を手厚く支援しています。就職に関することは遠慮なく各学科の就職担当に相談してください。就職担当教員名は大学のホームページにも掲載されています。



キャリア教育書籍

『働きマン』書評

教育人間科学部3年(執筆時) 津田彩乃

『働きマン』は、2006年にアニメ化、2007年秋には、菅野美穂主演でドラマ化された安野モヨコ作の人気漫画である。

本作品は都会での仕事をテーマにした漫画であり、出版社で働く主人公・松方弘子に焦点を当てるだけでなく、松方以外の人物にも焦点をあて、その人物の仕事観を描いている。

働きマンを読んで、世の中には本当にたくさんの職業があることを知った。そして、その仕事へ関わる人達は、それぞれの考えや思いを持って自分の仕事へ取り組んでいる。そうした仕事観に触れることができるという点で、とても面白い作品だった。私自身、就職活動を控えているこの時期に、様々な職業、様々な仕事観に触れることは、良い機会になったと思っている。

松方は、自分の仕事へ真っ直ぐに全力でぶつかっていく。「男スイッチ」が入れば、寝食・恋愛は忘れ、仕事へ取り組む。彼女は、「“仕事したなあ〜”と思って死にたい。」と述べている。登場人物の中には、そんな彼女を見て、「人生、仕事しかなかったと思って死んでいくのは嫌だ」と述べる人もいる。仕事へ対する価値観は、人それぞれで、何が良くて何が悪いとは言えない。だからこそ、彼らの価値観に触れることで、自分にとって「働くこととは何か!」、「仕事とは何か!」を考えさせられてしまう。

また、松方は29歳という年齢で、仕事に恋に、そして女性としての生き方に悩みをかかえながら日々の生活を送っている。

出版業界は他の業界と比べても、男女不平等があまり見られないという。女性にも、男性と同じように仕事が与えられ、女性が編集長になることも多々あるという。漫画を読んでも、編集者としての仕事は、すごくやりがいのあるものだという事が分かる。こうしたやりがいのある仕事をしているからこそ、松方自身、仕事

と女としての生き方の狭間で悩んでいるのだと感じた。

男女不平等があまり見られない業界だとしても、そこにはやはり女ならではの悩みがある。松方自身も、「女だから・・・」と思わせないようにするため、男以上に頑張って働く姿も見られる。反対に女だから良い目が見られる事もある。そうした状況下で、自分のやっている仕事について、女として生きることについてのジレンマに悩まされながら、それでも仕事に没頭する松方の姿はとても印象的だった。結婚して家庭に入る幸せもあれば、松方のように、仕事に没頭して生きる女の幸せもある。自分がどんな進路、職業を選んだとしても、そこには悩みや葛藤がつきまとうものだ。それに自分がどう向かっていくかが、自分の選んだ進路や職業よりも大切なのではないかと感じた。

『働きマン』は、仕事について、そしてその仕事を通して“生きる”ということをも、考えさせてくれる一冊だった。



キャリア教育書籍

「自分の中の、当たり前を疑って」(『働くことがイヤな人のための本』書評)

教育人間科学部3年(執筆時) 小原裕矢

長い学生生活も終わりに近づいて就職というものも確実に迫ってきた頃、「まだまだ学生でいたい」というセンチメンタルな気持ちと、「働きたくないなあ。ああ、憂鬱だ。」という漠然とした想いに駆られた。そんな時に目にしたがこのタイトル。まさに自分のための本だと思ってさっそく読んでみた。読むことで、どうしようもない不安やモヤモヤ感はなくなるかもしれない、この本は自分にとっての処方箋になるに違いないと期待していたのに、それはあっけなく崩れ去った。

この本は働くことがイヤな4人の架空の人が著者と架空の対談をするというスタイルで、働きたくない原因や働く理由を説いている。4人のうち若いキャラクターは、20代半ばのひきこもり留年生と小説が書きたい30歳女性の二人だ。

ひきこもり留年生の働くことがイヤな理由は「自分の自尊心を守りたいから」。彼は快楽を追究したくも、仕事で大成功したくもなく、知的な仕事(作家のような)に就きたいと思っている。しかし、自分に才能が無いかもしれないということを知るのが怖いから、そういう仕事にチャレンジ出来ない。知的な仕事で成功する人は限られているし、自分にはズバ抜けた才能が無いことにも気づいているからより一層だ。また、だからといって好きでもない仕事に就く気にはなれない。二人目の女性の理由はこうだ。自分の才能で何かを作りあげたい。やりがいのない仕事はしたくない。たとえ、一生成功しない作品しか作れなくても満足である。しかし、このまま死ぬまでまともな作品を作れないのでは無いかと思うと怖くてしょうがない。これが30代女性の理由だ。残りの中年男性二人は若い頃に、特にやりたくもない仕事を選択した。そして、この年になってそのことを後悔している。

著者から若者二人へのアドバイスはこういったものだった。やりたいことをやった結果として人

生が不幸になったとしても、その人生を自分が愛せるならばいいではないか。「よく生きること」は、一流の仕事をする事と同義ではないし、幸福に生きることでもない。よく生きるためには自分の中の真実をめざすという態度が必要だ。

たとえばミュージシャンとして音楽を続けようかどうか迷っている人に対して著者が言いたいことは、余計なことを全て取っ払ったとき、一流であることは君にとって重要なことなのか? お金を稼ぐことは重要か? ということだ。考えた末に、「三流ミュージシャンのまま60歳を過ぎ、お金も無い。窓辺に寂しく佇む自分の後姿」を愛せようならば、やりたくない仕事をよりもやりたい仕事をする方が良いと言っているのだ。

正直なところ、はじめは著者の言っていることがまったくわからなかった。一流の仕事をした方が満足につながるに決まっているし、幸福でない人生なんて価値はない。また、人から認められることに意味がある。こういった考えが当たり前のように自分の中にあつたためだ。しかし、何度も読むことで著者の言うことがだんだんと掴めてきた。この本が問題にしていたのは「当たり前のこと」に飲まれることだったのだ。私達の多くは「当たり前のこと」を知らず知らずの内に納得している。一流の仕事につく=良い人生、人から認められる=良いこと、をいつのまにか当たり前だと思っていた私のように。良く考えてみるとそれらが当たり前である理由なんて全く無いのだ。だから、何が自分にとっての真実であり、何が自分にとって価値のあるものなのかを良く考えなければいけない。これが本書から学んだことだ。

正直一度では理解できないし、理解したとしても思考の無限スパイラルに嵌まることは必至。考えることが好きな人や自分について考えを深めたい人にはオススメだ。あ、就活には使えないと思う。

キャリア教育書籍

就職が不安なあなたへ (『就職がこわい』書評)

教育人間科学部3年(執筆時) 垣内洋介

「あなたは就職がこわい?楽しみ?」

そう問われるとき、多くの学生は前者と答えるのではないだろう。

私も、就職がこわかった。大学3年の後期にも差し掛かると、周囲が「シュウカツ、シュウカツ」と騒ぎ始めるが、そんな雰囲気にもまれるように就職活動を始めたくなかった。「こういう仕事をしたい!」と心から思ってから動き出したい。でも、アルバイトや日々の課題に追われているとなかなか「これだ!」と思えるものも見つからない。

そんな時に会ったのがこの一冊。本書はそういった漠然とした就職に対する不安、ひいては将来の自分に対する不安を取り除く一助になったことは間違いない。それでは、以下に印象的な箇所を引用しながら、本書の内容を紹介したい。

筆者は精神科医であり、大学教授でもある。また、大学において就職委員を務める中で直に学生と接してきた実体験をもとに本書は綴られている。「今の大学生に何をすればいいんだろう」という学生に対する真摯なまなざしは優しく、温かい。

さて、具体的な若者の心理分析に関する筆者の主張は以下のようにまとめられるだろう。まず、自己の評価が著しく低いということ。それでいて自分を特権的な存在だと思っているということ。前者に関しては、納得はいくものの国大生に限って言えばあまり当てはまらないのではないかと考える(強引ですが…)ので、あえてここでは後者について述べたい。特権的な存在とは、言い換えれば本書にも登場する「オンリーワン」の考え方のことである。「自分にしかできない仕事をしたい」「自分らしく生きたい」という思いのあまり、就職に前向きになれない学生が少なくないというのだ。このことに関しては第3章や第5章に詳しい。中でも第3章5項「就職と“自分探し”」は私にとって非常に興味深かったので以下で紹介する。就職活動に臨む際に語られることの一つに

「自己分析」がある。「自分の夢は何か」「どのように働きたいか」といった問いを自らに投げかけ、無数にある仕事と照らし合わせながら就職活動に取り組むのである。しかし、それらの問いを真剣に受け止めるあまり、「『仕事とは何か』『自分にとって働くとは何か』などとむずかしく考えすぎて、なかなか具体的な就職活動に至ることができない学生がいる」というのである。そして、このように観念的に問題を捉えてしまうことで思考が内面に向かい、就職についてではなく自分自身について悩んでしまう、というのである。この論理には唸らされた。恥を忍んで告白すると、私自身がその一人なのである(苦笑)。これはほんの一例に過ぎないが、本書では様々な思いにより就職から遠ざかる学生の実例が数多く紹介されていることは前述した通りである。自分に当てはまるかどうかはわからないが、就職にわずかでも不安がある方であれば、少なくとも参考にはなるはずである。

上記の若者の傾向に加え、筆者は親への依存を指摘していることも本書を語る上で欠くことはできない。今の家族が永遠ではないということ、酷な言い方であることを自覚しながらも綴っている。働かないと食べていくことはできない、という至極当たり前の理屈であるが、このことは就職を考える上で、我々学生だけでなくその保護者も長期的なビジョンを展望して考えておく必要があるだろう。

以上のような若者の傾向を踏まえ、筆者は第6章「打つべき手があるとすれば」と題して語っているが、残念ながら紙数が尽きてしまった。是非とも本書を手にとって参照されたい。そして、友人や家族と互いの未来についておおいに語っていただきたい。

就職って、そんなにこわいものでもないんじゃないかな。



IV



教職履修カルテ

1. 「教職履修カルテ」とは何か？

「教職履修カルテ」とは、教員免許取得に関わる授業科目の履修を通じて育んでいく、教育に関する理論と実践的な指導力に関する学びの軌跡をまとめたものです。この「教職履修カルテ」は、4年次秋学期に開講される「教職実践演習」において、自らの学習成果のデータ・ファイルとして活用します。

「教職履修カルテ」の策定にあたり、横浜国立大学では、教員に求められるべき資質・能力を以下の5要素として定め、大学での各授業科目でその理論を学ぶと共に、教育実習などの実践体験活動の中でその理論を生かすことで、実践的な指導力の育成と向上を目指します。

- ① 専門職に求められる基礎的な素養
- ② 各教科や教科外教育等の指導
- ③ 児童・生徒理解と学級経営
- ④ 自己探究リテラシー（自らの関心に基づき、学術的な技量を高めていく力）
- ⑤ 協働・連携に関するリテラシー（教職員や保護者や地域と協働的に活動する計画を立案する力）

この「教職履修カルテ」が、理論に支えられた高度な実践的指導力の育成を目指す学びの軌跡となることを願っています。

2. 「教職履修カルテ」を記入しよう！

この教職履修カルテは、原則として1年間の学習が終了した時点で、その年度の学習を各自が振り返り、学習成果を自己評価して記入するものです。以下の手順に沿って、記入していきましょう。

- ① 教職履修カルテの表面は、表形式になっています。表の履修した授業科目と成績欄に、縦書きで「教職関連科目」と「教科専門科目」に分けて、この1年間で履修した授業科目名を記入する欄が設けられています。ここに受講した科目名を記入して下さい。（点線の下部分は、各授業科目の成績の記入欄になっています。成績が出たら、記入しましょう。）
- ② 「教職関連科目」については、各評価要素の評価観点にそくして以下の4段階で評価し、数値を記入します。
 - 4：「十分に習得できた」
 - 3：「およそ習得できた」
 - 2：「少し習得できた」
 - 1：「ほとんど習得できていない」
- ③ 「教科専門科目」については、各評価要素を参考にして、どのような力が身についたと考えているのかについて、科目毎ではなく、まとめて文章で記述して下さい。（履修科目に該当する評価要素がない場合は空欄として下さい）
- ④ 「教職関連科目」と「教科専門科目」の自己評価が記入できたら、評価要素毎に「教職関連科目」の得点の平均値を算出して「自己評価の平均値」欄に記入すると共に、教職関連科目及び教科専門科目を各評価要素の視点から総括して、「学んだこと（成果と課題）」の欄に文章で書きましょう。
- ⑤ 教職履修カルテの裏面は、「総合的な自己評価」とレーダーチャート、「教員からのコメント」で構成されています。「総合的な自己評価」欄は、表ページの5つの評価要素をもとに、現時点での自分自身の課題とそれを克服するために必要な学習や研究、実践活動について、自分の考えをまとめて記述します。レーダーチャートは、表ページの「自己評価の平均点」を、要素毎にプロットして作成します。なお、2年次以降は、前年度までの各評価要素の得点に当該年度の自己評価点を加えて平均値を算出し、各項目における成長の度合いを確認できるようにして下さい。
- ⑥ 「教職履修カルテ」は本学ウェブサイトからもExcelファイルでダウンロードすることができます。

3. 「教職履修カルテ」の提出

履修カルテの提出時期、提出先は各学部によって異なりますので、別途掲示等でお知らせいたします。

平成 年度 年次生用「教職履修カルテ」…理論に支えられた高度な実践的指導力の育成を目指す学びの軌跡として

学籍番号

氏 名

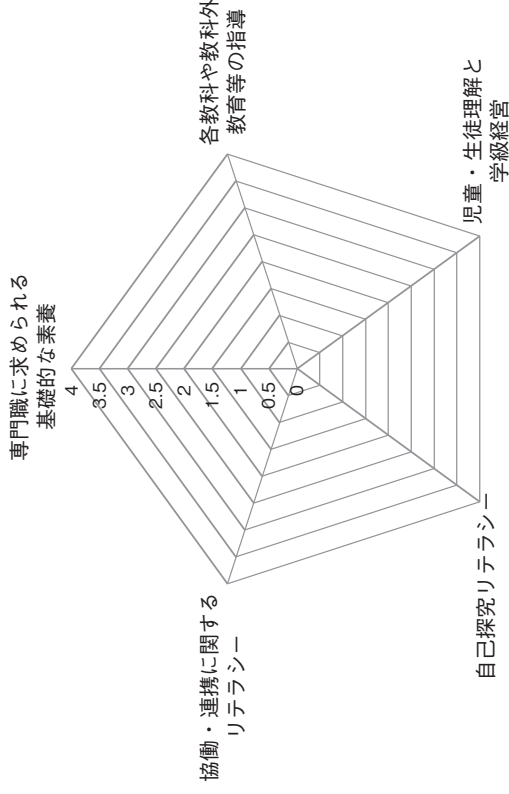
評価要素	具体的な評価観点	YNUイニシアティブ 4つの実践的「知」の対応		履修した授業科目と成績(上段が授業科目名、下段が成績)		学んだこと(成果と課題)	
		知識 教養	思考力	倫理観・責任感	コミュニケーション能力		教職関連科目
<p>◆ 1年間の学習を振り返り、下のシートにその成果を記入しましょう。</p> <p>中央上段に履修した授業科目名を記入し、その授業で各評価要素に対応する内容をどの程度習得できたかについて、自己評価してみよう。教職関連科目については、すべての評価要素について、4:「十分に習得できた」、3:「おおよそ習得できた」、2:「少し習得できた」、1:「ほとんど習得できていない」の4段階で評価し、教値を記入しよう。教科専門科目は、各評価要素を参考にして、科目毎ではなく、まとめて文章で記述しよう。</p>	<p>具体的評価観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の意義(思想的、社会的、歴史的、制度的等) ・教育の理念(同上) ・学校教員の仕事(同上) ・教師としての責任感 ・教師としての倫理観 ・教師として期待される行動力 ・学習指導要領 ・カリキュラム(目標設定を含む) ・教材・教育内容の理解と分析 ・評価の方法と考え方 ・児童・生徒の学習態度や課題の把握 ・実態と課題に即した指導案の作成と修正 	○	○	○	○	3	
<p>専門職に求められる基礎的な素養</p>		○	○	○	○	3	
<p>各教科や教科外教育等の指導</p>		○	○	○	○	4	
<p>児童・生徒理解と学級経営</p>		○	○	○	○	4	
<p>自己探究リテラシー(自らの関心に基づき、学術的な技量を高めたい力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公平な教室文化の構築 ・児童・生徒との信頼関係づくり ・規律、きまり、ルールの確立と維持 ・児童・生徒との応答的な人間関係づくり ・いじめ、不登校への対応 ・専門的な知識やスキルの探究 ・時代の要請に応じた対応策の探究 ・専門性を習得し活用し続ける意欲 ・教育の課題と専門性を結びつける問題関心 	○	○	○	○	3	
<p>協働・連携に関するリテラシー(教職員や保護者や地域と協働的に活動する計画立案する力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 ・プレゼンテーション能力 ・新たな取り組みを計画・立案する意欲 ・協働的に活動する力 ・取り組みを評価する力 	○	○	○	○	3	
		○	○	○	○	2	

YNUイニシアティブにおける実践的「知」
 横浜国立大学では、積極的に課題解決に取り組み、適切に判断する人材に求められる力として4つの実践的「知」(「知識・教養」「思考力」「コミュニケーション能力」「倫理観・責任感」)を設定し、これを「学位授与の方針」として公開しています。
 これらの4つの実践的「知」と評価要素の関連を記号(◎○)で示しています。

総合的な自己評価（今年1年を振り返って）

◆現時点での課題を表頁の5つの評価要素（ならびに実践活動用カルテの評価要素）をもとに、振り返ってみましょう。そして、明らかになった課題を克服するために、どのような学習や研究、実践活動等を行うと良いと考えるのかについて、自分の考えを述べてみましょう。

これまでの学習成果（リーダーチャート）



教員からのコメント

Empty box for teacher comments.

Large empty box with horizontal dashed lines for writing.